



# 活動報告2024/2025

Activities Report 2024/2025

## 日本工学アカデミーの基本理念、使命及び基本方針

日本工学アカデミーは、21世紀において持続可能な発展をする社会の実現に向けた貢献をするため、その役割と活動に関する基本理念、使命、そして基本方針を以下の通り定める。

### (1) 基本理念

日本工学アカデミーは、「未来社会を工学する」(Engineer the Future) というスローガンを設定し、人類の安寧とより良き生存に貢献する姿勢を内外に示してきた。この姿勢は、未来社会をデザインし、科学と技術開発の成果を社会に実装し、その結果を評価して、次のデザインにつなげるという循環モデルを内包する。これは、2016年に国際工学アカデミー連合(CAETS)が、“Engineering a Better World”をスローガンと決めたことや、SDGsにおける中心テーマである“STI(科学技術イノベーション) for SDGs”と軌を一にする。ここでは、視座を経済利益の優先から人間を中心に据え直す点で共通している。このような点を踏まえ、「人類の安寧とより良き生存のために、未来社会を工学する」という従来の考えを、基本理念として再確認する。

### (2) 使命

公益社団法人日本工学アカデミーは、広く大学、産業界及び国の機関等において、工学及び科学技術、並びにこれらと密接に関連する分野に関し顕著な貢献をなし、広範な識見を有する指導的人材によって構成し、人類の安寧とより良き生存に向けて、工学及び科学技術全般の進歩及びこれらと人間及び社会との関係の維持向上を図り、我が国ひいては世界の持続的発展に資することを使命とする。

### (3) 基本方針

- ① 専門家集団としての政策提言活動を積極的に推進する。
- ② 海外関係機関との連携・交流活動を強める。
- ③ 次世代の指導的人材を育成する。
- ④ 人びとの科学技術活用能力の向上を支援する。
- ⑤ 以上のために、あらゆる壁を越えた共創を拡大する。

これからの日本工学アカデミーの役割  
2017年11月22日 日本工学アカデミー理事会

# 日本工学アカデミーの役割



2024/25年の活動報告書を上梓するにあたり、当アカデミーの活動にご尽力いただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。また、1987年の発足以来38年にわたりご指導ご支援をいただいております多くの方々に、この場をお借りして改めて深謝申し上げます。

当アカデミーは、科学技術の分野に豊富な経験と業績を持つ条件で選ばれた会員のボランティア活動と当アカデミーの趣旨に賛同いただいている賛助会員の多大なご支援によって支えられている、日本を代表する独立したアカデミーであります。本活動報告書に記載しておりますように、各支部の活発な活動や各国の代表的な工学アカデミーなどの国際交流を含め、科学技術にかかわる広範な活動を続けております。

その一方で、国内では、1990年代から明白だった急速な少子化がようやく世間の口にのぼるようになりました。政治、経済、産業、生活、教育、そして科学技術の在り方、すべてにわたって大きな社会転換の必要な状況が露わになっています。また、社会構造の転換には経済成長が必要なことも明らかになりつつあります。「失われた30年」のさきに多少の光が見えている今こそが、社会の転換と経済の成長に向けて抜本的な舵を切る時期であります。

国際社会では、戦争や紛争が絶えない中で、大国の行動が世界の行方を左右する状況が露呈しています。また、イギリス、フランス、ドイツ、そしてアメリカが長い間主導してきた西欧的民主主義が後退し、実利主義に傾斜するグローバルサウス諸国が台頭しています。日本が欧米とグローバルサウスの間の調停役としてどんな立ち位置を築けるか、この課題は、日本の安全保障だけでなく世界の安定に寄与する、これからの大きなテーマであります。

当アカデミーは「人類の安寧とより良き生存のために、未来社会を工学する」というモットーを掲げていますが、国内の社会と国際社会がともに時代の大きな転換期にあるなかで、このモットーは、以前に増して大きな意味を持つようになっていきます。日本と世界の歴史的転換期を乗り越えるには、人類の安寧とより良き生存という目標に向けて社会を変革する-つまり工学する-ことが必須だからです。

このことは、科学や工学に直接かかわる研究者、開発者、技術者などだけに限ることではありません。政治家、政策担当者、自治体関係者、経営者、一般の生活者、男女を問わず、年齢を問わず、誰に対しても言えることです。

日本工学アカデミーは、独立した科学と工学のアカデミーとして、社会をリードし社会を支える多くの方々とともに、この混沌とした時代を乗り越えるための活動を積極的に続けてまいります。今後ともご指導ご鞭撻ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

2025年6月5日  
公益社団法人 日本工学アカデミー 会長

安西 拓一郎

# 2024年度 事業報告

本報告では、1. で、定款第4条の5事業に関わる活動概要について総括し、これら5事業を担当する日本工学アカデミー（以下、EAJ）の組織（事業報告最終ページに記載）それぞれに、2. で法人運営に係わる活動に関し企画推進活動、組織基盤増強活動等について、3. で公益目的事業に係わる活動に関し委員会活動及び支部活動について、詳細に説明する。

## 1. 2024年度の総括

2024年度に始まった安西祐一郎会長体制において、法人運営に関わる活動では、賀詞交歓会、EAJフォーラムなどを対面で実施するとともに、オンラインを活用し、事前の議決権行使の電磁化投票を初めて取り入れた社員総会の開催、企画運営会議下の実行委員会の設置、企画運営会議・理事会などの効率的な運営を行った。公益事業に関わる活動では、「政治家と科学者との対話の会」を対面で開催すると共に、オンラインも活用した委員会・支部活動、プロジェクト、談話サロン、新入会員ガイダンス、賛助会員企業ラウンドテーブル、内外でのフォーラム・シンポジウム、メディア対応を含めた広報活動、などを実施することで、政策提言を地域、国内外に広く発信するとともに、普及啓発、国際交流活動を行った。なお、2024年度は、社会・経済情勢の激変、円安、物価高騰の進行、国際会議の対面開催の再開など、厳しい状況下での2025年度の予算作成となった。定款第4条の5事業活動に関する、これら代表的成果は下記の通りである。

**（事業1） 創造的革新技术の萌芽の模索、評価等による、先見性・創造性のある基礎研究の推進のための調査研究、提言等に関する事業**

①政策提言委員会：先見性・創造性のある基礎研究の推進のための、「未々の製造業における新たな学術領域構築のための調査研究」（新技術振興渡辺記念会調査研究受

託）報告書発行、「人類の安寧とより良き生存を目指した工学倫理と工学教育プロジェクト」（新技術振興渡辺記念会調査研究受託）推進中、②科学技術・イノベーション（STI）2050委員会/研究力強化委員会：国際研究力の強化に向け、人文・社会科学も含め、Well-being、評価指標の在り方、未来社会像のあるべき姿などについて継続深耕中、③若手委員会：第2回若手リーダー塾－フューチャーリーダーズフォーラム“未来を拓く国際人材へ成長する新たな視座”－を企画した。**（事業2） 社会、産業界、学界が工学及び科学技術に関する分野で直面している具体的問題の把握とその解決に関する事業**

①政策提言委員会：「生成AIをはじめとしたAIによる社会変容とリスクマネジメントに関する調査研究」（新技術振興渡辺記念会調査研究受託）報告書発行、「社会、産業、人々の生活の変容を支える電力システムの在り方」（略称：EAJ電力プロジェクト）推進中、②国際委員会：STSフォーラム年次総会に併せてEAJが主導し、「AIと人間社会」に関して工学アカデミー会長会議AEPMで意見交換を実施、継続情報共有中、③賛助会員企業ラウンドテーブル実行委員会：EAJフォーラム2024の深堀版として“イノベーションとオープン・クローズド戦略”をテーマに第8回賛助会員企業ラウンドテーブル開催。

**（事業3） 工学及び科学技術に関連する問題についての普及啓発活動に関する事業**

①広報委員会：EAJ NEWS 4回発行、メールマガジン発行、パンフレット2024作製、会員の声（新入会員の近況）開始準備、著作権等について審議、②政策共創推進委員会：「政治家と科学者との対話の会」第9回（日本の行く手と材料の選択）、第10回（国会議員からの問題提起とそれを踏まえた討論による政策共創）開催、我が国がマテリアル分野で勝ち続けるために（共有された考えのとりまとめ）

の公表、③ジェンダー委員会：安西会長との意見交換会、第8回EAJジェンダーシンポジウム「理工系女子学生はなぜ大学院に進学しないのか?」、緊急提言「情報学・工学分野における女性の参画を拡大する方策」など実施。

#### (事業4) 工学及び科学技術の分野における国際交流の推進に関する事業

①国際委員会：国際工学アカデミー連合CAETS、EA-RTMに参加、STSフォーラムで工学アカデミー会長会議AEPM開催、また、ERLEP、FoE Japan開催、②支部など：The 10th International Symposium (DFGI-10) 協賛、第8回先端メカトロニクス国際会議(ICAM2024) 協賛、第3回NARO食と健康の国際シンポジウム後援。

#### (事業5) その他本法人の目的を達成するために必要な事業

(公益事業)

①国際委員会/事務局など：JAGFOE LOI締結、JAFOE、JAGFOE等開催趣意書、協賛金募集、②企画推進グループ/会員強化委員会など：第198/199回談話サロン・第8/9回新入会員ガイダンス実施、③支部：全国規模・共創でのフォーラム、シンポジウム等実施、中国・四国支部設立に向け会員増強。

(法人事業)

①企画運営会議/企画推進グループ/事務局など：社員総会、EAJフォーラム、賀詞交歓会対面開催、EAJ事業貢献表彰実施、②理事会：5回開催、職務執行状況報告2回実施、2025年事業計画及び収支予算、JAGFOE事業、寄附金取扱規程などを議決、③企画運営会議：8回開催し、重要行事企画案、2025年事業計画案などを審議、理事会上程、④企画推進グループ：政策提言委員会、研究力強化委員会などの公益目的事業支援、賀詞交歓会、事業貢献表彰等の企画推進支援、⑤会員強化委員会/会員選考委員会：正会員：会員選考委員会4回開催、41名入会、会員増、客員会員：会員選考委員会1回開催、次年度から12名入会、賛助会員：2023年度末50→2024年度末48、⑥財務・事務機能強化委員会：月

次報告の徹底、2025年度、2027年度正味財産健全化などにより持続可能で円滑な公益事業基盤確保策を策定、⑦会長・副会長懇談会：2025年度、2027年度財務状況改善に向け、支出減・収入増策等について審議、⑧EAJフォーラム実行委員会：EAJフォーラム2024「QRコードの原点と成長－地域初の世界標準事例に学ぶ－」を企画、開催、⑨内規アップデート等検討ワーキンググループ：委員会等に係る設置文書の制定及び改定、会員選考委員会規程に基づく要領制定等を実施。

## 2. 法人運営に係わる活動

会員・賛助会員の拡充、多様化によるEAJ価値創生基盤の一層の強化を図り、定款第4条に定める5事業において、2024年度事業計画に基づき、計画的に法人運営に関わる下記の企画推進、組織基盤増強、事務局活動を円滑かつ効果的に推進した。

### 2-1 企画推進活動

#### 1) 社員総会

2024年6月6日第12回（通算第28回）定時社員総会を、ウェビナー会議方式で開催した。なお今回の総会では、事前の議決権行使の電磁化投票を基本として進め、アドレス登録のない会員については、従来通り書面による議決権行使とした。また総会の様子は当日ウェビナーにて配信した。

定款第15条1項の規定により小林喜光会長が議長を務めた。議長はWEB会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認して議案の審議に入った。当日在籍正会員810名中、事前の議決権行使をされた正会員数が571名（電磁的行使465名、書面による行使106名）、事前の議決権を行使せず当日出席した正会員数が2名であり、事務局より総会は成立している旨の報告があり、議事録署名人として、議長に加え、議長提案の菱田公一理事、城石芳博理事、川合真紀理事が選出された。議事

は下記の通りである。

(1)監事を代表して辻篤子監事より、業務及び会計は適正に処理されている旨の監査報告があり、続いて、(2)城石芳博専務理事から第1号議案(2023年度事業報告の承認)、(3)睦哲也常務理事から第2号議案(2023年収支決算の承認)、(4)城石芳博専務理事から第3号議案(理事・監事の選任)に関して、議案毎に説明があり、承認可決された。それぞれの議案書の審議は、会員からの意見への回答を含めた形で議案書の説明、議案書に対する議決権行使の集計結果の報告、議案書の採決の順で、進められた。最後に、(5)睦哲也常務理事から、社員総会議案書に基づき、2024年度事業計画及び収支予算の報告があり、すべての議事を終了して、閉会となった(事業1～5)。

なお、総会に併せ、会員近況報告紹介、事業貢献表彰、伊佐進一衆議院議員から来賓挨拶、デンソーウェーブ主席技師原昌宏会員から基調講演を頂いた「QRコードの原点と成長ー地域初の世界標準事例に学ぶー」に関するEAJフォーラム2024(現地で約40名、ウェビナーで38名参加)を実施した(事業1～5)。

## 2) 理事会

通常理事会を5回(2024年5月16日、2024年6月6日、2024年8月22日、2024年11月14日、2025年2月13日)開催し、企画運営会議からの提議を受け、定款第4条の5事業全般の運営にかかわる重要事項について審議・議決した(事業1～5)。今年度の理事会運営にあたっては、特に後半から、議決案件、報告案件を分けし、議決案件において可能な限り十分な審議時間を確保するように措置した(事業1～5)。

2024年度の主な議決事項は、2024年度定時社員総会における決議案(2023年度事業報告、収支決算、監査報告、理事・監事の選任)、2025年度展望・事業計画と収支予算、創立40周年に向けた財務基盤強化活動、寄附金取扱規程、国立国会図書館/新技術振興渡辺記念会調査研究への応募/報告書、正会員・客員会員の入会・休会、委員会委員長・委員の選任、支部長会議(委員長も参加)議事、重要行事企画、理事会

議事、委員会等に係る設置文書の制定・改定、会員・賛助会員等に係る内規の改定、プロジェクトなどの活動報告書、2025年6月定時社員総会開催要領、理事会等主要行事日程、緊急提言などである(事業1～5)。

主な報告事項は、会員の退会・逝去、会費納入状況、月次予算執行状況、固定資産・流動資産の推移、EAJフォーラムなどのEAJ主催事業報告、委員会/プロジェクト/支部などの活動報告・行事予定案内、他団体主催行事に対する協賛・後援・協力依頼などである。なお、2024年5月16日および11月14日の理事会において、会長、副会長、専務理事および常務理事による自己職務執行状況報告が行われた(事業1～5)。

会長：安西祐一郎

副会長(会長代理)：岸本喜久雄

副会長：五十嵐仁一、大島まり、川合眞紀

専務理事：城石芳博

常務理事：坪井裕、睦哲也(常勤)

理事：浅間一、伊藤みほ、岩井善郎、大村直人、沖大幹、川合知二、神崎亮平、楠見晴重、小林信一、塩満典子、関谷毅、瀬戸口剛、田口康、田中真美、谷明人、塚原健一、長坂徹也、中山智弘、行木陽子、久枝良雄、増田隆夫、渡邊政嘉

監事：辻篤子、林秀樹

## 3) 企画運営会議

2024年度内に、8回(2024年4月24日、6月27日、8月8日、9月26日、11月7日、12月19日、2025年2月5日、3月13日)開催し、その都度、定款第4条の5事業全般の運営にかかわる重要事項・課題の審議、確認を行い、理事会議決・報告案件とした(事業1～5)。

主な審議案件は、正会員・客員会員入会案、休会案、会長・副会長・専務理事及び常務理事の自己職務執行状況報告案、国会図書館・新技術振興渡辺記念会などの受託調査研究の提案・報告案、創立40周年に向けた財務基盤強化活動案、寄附金取扱規程案、理事候補者名簿案、委員会委員長・委員の交代・追加案、定時社員総会・理事会・会長・副会長懇談会・支部長会議

(委員長も参加)開催案、および、事業貢献表彰・EAJフォーラム・賀詞交歓会・賛助会員ラウンドテーブル・新入会員ガイダンス・談話サロン・ジェンダーシンポジウム・政策提言プロジェクト・EAJパンフレット2024などの重要事業・行事の企画・議事案、理事会等主要行事日程案、2024年度事業報告/2025年度展望・活動方針・予算見直し案(内閣府対応含む)、委員会等に係る設置文書の制定・改定案、正会員・客員会員・賛助会員等に係る内規の改定案、共催依頼案、緊急提言案などである(事業1～5)。

また併せて、会員の退会・逝去、会費納入状況、月次予算執行状況、固定資産・流動資産の推移、EAJ主催事業/委員会/実行委員会/グループ/プロジェクト/支部などの活動報告・行事予定案内、独立監査人監査・監事監査報告、2025年4月からの新しい公益法人制度への対応関係の外部理事・外部監事の導入の必要性についての報告、協賛・後援・協力依頼等の名義使用の確認などを実施し、審議案件と併せて理事会に提議した(事業1～5)。

なお2024年12月16日、2025年1月28日に会長・副会長懇談会を開催し、EAJ事業運営の在るべき姿などの意見交換を行い、事業計画・予算案に反映した(事業1～5)。

委員長：安西祐一郎

委員長代理：城石芳博

委員：岸本喜久雄、五十嵐仁一、大島まり、川合眞紀、陸哲也、坪井裕、倉持隆雄、原山優子、安永裕幸、中山智弘

#### 4) 企画推進グループ

2024年度は、(A)法人運営に係る活動では、財務・事務機能強化委員会、会員強化委員会と連携した、組織基盤安定化の企画・推進の支援活動を、(B)公益目的事業に係る活動では、社会・市場・技術潮流や、会員、賛助会員、支部、他委員会などからの意見を参考に、定款第4条の5事業全般の運営にかかわる、EAJならではの活動の企画・推進を実施した(事業1～5)。

#### (A) 法人運営に係る活動

組織基盤安定化による共創活動の一層の活性化をめざし、以下の活動を行った。

- ①事業貢献表彰などの企画・運営支援を行い、エンゲージメントの向上、事業活性化を支援した(事業5)。
- ②広報委員会と連携し、EAJパンフレット2024の作成などを支援した(事業5)。

#### (B) 公益目的事業に係る活動

各事業間、産学官の連携強化の促進に努め、以下の活動の企画・推進を行った。

- ①社会・市場・技術潮流や、会員、賛助会員、支部、他委員会などからの意見を参考に、2025年1月賀詞交歓会・EAJフォーラムなどの企画、運営を支援した(事業2、事業5)。
- ②第8回、第9回新入会員ガイダンスを企画・開催、会員選考委員会、会員強化委員会、財務・事務機能強化委員会などと連携して実施、自己紹介・アンケートなどで会員間連携・活性化促進など支援した(事業5)。
- ③第8回、第9回新入会員ガイダンスと連携した、第198回、第199回談話サロンを企画、実施した(事業1～3、事業5)。

リーダー：中山智弘

委員：大江田憲治、小田俊理、城石芳博、橋本正洋、藤田豊久

アドバイザー：中村道治

#### 5) 賛助会員企業ラウンドテーブル実行委員会

第18回EAJ中部レクチャー「QRコードの原点と成長」、およびEAJフォーラム2024「QRコードの原点と成長－地域初の世界標準事例に学ぶ－」の深堀版として、EAJ賛助会員企業を対象に、イノベーション政策に関する基調講演と、イノベーションとオープン・クローズド戦略についてと題したパネル討論を中心に、2024年11月11日にオンライン形式で第8回賛助会員企業ラウンドテーブルを開催した。参加申し込みはパネリスト含め、11社、計36名であった。

入念な事前すり合わせ会を実施して開催したラウンドテーブルでは、賛助会員企業それぞれ

の代表者から、自己紹介とラウンドテーブルへの期待、イノベーションとオープン・クローズド活動における問題意識なども伺い、パネル討論などでのより深い議論につながり、実施後のアンケートでも前向きな意見が多数あった。なお、EAJ概要やパネリストの講師の先生方の資料は、その後参加者と共有された(事業2、事業3、事業5)。

委員長：五十嵐仁一

委員：伊藤みほ、専務理事、両常務理事

## 6) 若手リーダー塾実行委員会

若手リーダー塾実行委員会では、2025年4月23日・24日に開催を予定している「EAJフューチャーリーダーズフォーラム～未来を拓く国際人材へ成長する新たな視座～」に向け、企画立案からプログラム構成、講演者の選定、運営準備までを幅広く担当してきた。本フォーラムは、EAJが未来を担う次世代人材の育成に寄与することを目的とし、企業・大学・官公庁など多様な領域の若手リーダー候補が一堂に会する貴重な学びと交流の場として位置づけられている。

2024年度、実行委員会では、若手委員会のメンバーを中心に複数回の企画会議を開催し、「これからの国際社会に貢献できる人材とは何か」「リーダーシップとイノベーションに必要な視座とは何か」といった根源的な問いを軸に、フォーラムの基本構想を練り上げた。特に、国際的に活躍する人材の育成を主眼に置き、産学官それぞれの第一線で活躍する講師陣を招聘することとし、情報科学、経営、人材育成、スタートアップ、グローバルリーダーシップなど多様なテーマにわたる講演を通じて、参加者に多角的な学びを提供できるようプログラムを構成した。初日は、4名の講師による講演と全体討論を中心に、国際的リーダーとしての感性や実践知に触れる機会を設ける。二日目は、引き続き1名の講師による講演と、参加者同士が主体的に議論するグループディスカッションと総合討論を展開し、自ら課題を見出し、考え、提案するプロセスを重視する。これにより、単なる知識の受け手ではなく、実社会で変革を起こす担

い手としての成長を促す構成とした。

準備にあたっては、若手委員会や関西支部との連携のもと、大阪大学や協賛団体とも協力体制を築き、会場運営・配信環境・懇親会企画なども並行して整備している。また、参加者が多様な背景から集まることを想定し、交流の促進や継続的なネットワーク形成にも配慮した設計を心がけた。本フォーラムは、若手委員会、人材育成委員会など関連する委員会や共催連携機関のビジョンを体現する中核的な人材育成プログラムとして、今後も発展的に継続されることが期待される。実行委員会としては、2025年4月の成功に向け、引き続き準備を進めつつ、参加者一人ひとりの成長と新たなつながりの創出を支える場となるよう尽力している(事業5)。

委員長：川合眞紀

副委員長：大島まり、辻佳子、関谷毅

委員：田中真美、伊藤みほ、渡邊政嘉、石原直、神崎亮平、永野智己、専務理事、両常務理事

## 7) EAJフォーラム実行委員会

EAJフォーラム2024「QRコードの原点と成長－地域初の世界標準事例に学ぶ－」を、2024年6月6日第12回(通算第28回)定時社員総会、“会員が選ぶ事業貢献表彰”式典に併せ、ハイブリッド方式で開催した。現地で約40名、ウェビナーで38名が参加した。

フォーラムでは、デンソーウェーブ主席技師原昌宏会員により、世界的普及に向けた、発明、周辺技術の整備と開発、マーケティングと商品化などでの苦労、経緯、教訓は、ハードとソフト、要素とシステム、科学技術とイノベーション、オープン・クローズド戦略など、示唆に富んだ基調講演があった。会場やウェビナー参加者から多数の質問と意見交換とがあり、会場ではフォーラム終了後も、原氏を囲んだ和やかで熱い議論が続くなど、我が国の研究力、産業競争力の強化に向けて新たな一歩を踏み出す上などでの多様な観点で、EAJならではの活気あふれる会となった(事業2、事業3、事業5)。

委員長：岸本喜久雄

委員：中山智弘、谷明人

## 8) 内規アップデート等検討ワーキンググループ

内規アップデート等検討ワーキンググループは、定款の事業の実施に必要な内規等の整合性が確保されることを目的に2024年11月に改組設置された。2024年度に19回のワーキンググループを開催した（第7回までは内規アップデート検討委員会（WG）としての開催）。ワーキンググループでは、委員会関係・支部関係内規等の見直し、客員会員候補者推薦手順書・入会後確認の進め方、賛助会員入会案内・入会手順の確立等の検討や、委員会副委員長の選任要請等を進め、6内規の理事会制定、6内規の理事会改定等の結果に結びつけた（事業5）。

リーダー：坪井裕

委員：専務理事、常務理事

アドバイザー：永野博、長井寿

## 2-2 組織基盤増強活動

### 1) 会員選考委員会

年4回（2024年4月22日、7月25日、10月24日、2025年1月23日）の委員会によって会員候補者の入会審査を行った。41名が正会員となり、会員増につながった。また、専門分野や所属組織、年齢構成、男女差等の多様化を推進した。客員会員制度については、2023年度より開始した客員会員の選考を年1回で行うことを継続した。客員会員候補者選定ワーキンググループを開催して事前審議を行い、候補者の審査を実施した結果、2025年度には12名が入会することとなった。客員会員は2024年度初57名（海外17名、国内40名）から、2024年度末退会1名も考慮すると、2025年度初には66名（海外16名、国内50名）となる（事業5）。

### 〈2024年度の会員推移〉

	正会員（人）	客員会員（人）
2024年度初	811	57
入会	41	0
退会*	4	0
逝去	12	2
2024年度末	836	55

※前年度の退会2名を含む

委員長：岸本喜久雄

副委員長：長我部信行、菱田公一

幹事：北村守

委員：

第1分野 岩附信行（主査）、河原源太、小菅一弘、福山満由美

第2分野 喜連川優（主査）、伊藤順司、北村守、寒川哲臣、長谷山美紀

第3分野 佐伯とも子（主査）、伊藤素行、堤康央、古原忠、村上晃一、村上秀之

第4分野 道奥康治（主査）、大原美保、塚原健一、丸山一平、山村真司

第5分野 瀬川浩司（主査）、坂西欣也、武藤敬

第6分野 伊藤聡（主査）、一村信吾、武田英次、渡辺美代子

第7分野 養王田正文（主査）、河野美由紀、高木昌宏、津本浩平、安井正人

第8分野 倉持隆雄（主査）、江上美芽、小山珠美、坂田一郎、高木真人、安永裕幸

### 2) 会員強化委員会

2024年度当初に新たに6名の委員が加わり、活動体制を強化してスタートした。委員会は例年通り会員選考委員会開催日の約50日前の日程にて、2024年6月19日（第17回）、9月25日（第18回）、12月20日（第19回）、2025年3月14日（第20回）の4回をオンライン開催した。委員会では、EAJの各種活動の状況、および個人会員と賛助会員の現状と推薦状況の把握にもとづいて、会員発掘と推薦活動の活発化について議論を進めた。論点は、会員の分野や業界の拡大、若手会員・女性会員・企業会員の拡大方策、会費制度の改善点の提案、個人/法人会員向けEAJ活動情報

の提供の進め方など、会員の強化とダイバーシティ拡大に向けた諸課題である。なお、委員会活動を通じて2024年度は、総数41名の新規正会員入会につながる推薦に貢献した(事業5)。

委員長：石原直  
副委員長(2024年10月まで幹事)：大江田憲治  
担当理事(2024年11月から)：坪井裕  
委員：天野玲子、太田光一、近藤玲子、小林信一、塩満典子、城石芳博、関谷毅、田中敏宏、辻佳子、長坂徹也、馬場直志、山本元司、藤野陽三、睦哲也、坪井裕、柚原義久、  
アドバイザー：中村道治

### 3) 財務・事務機能強化委員会

2024年度は、日本経済が緩やかな回復を示し、利上げが実施されるなか、物価上昇や人材確保難を背景とした賃上げが必定となる一方、将来にわたる持続的成長には、併せて、設備投資や生産性向上の具体化が不可欠となることが改めて認識された。それを受けて、営利企業では細部に至る資本効率の追求が当然となり、多寡を問わず経費の見直しが行われた。かかる状況下、収入面では厳しい現実と直面するも、2025年度以降の事業計画も踏まえて、外部受託事業の積極的な獲得を推奨すると共に、特定用途の指定寄付金制度の導入により資金調達手段を拡充した。その結果、収支は、翌年度事業の指定寄付金の前納分が寄与して、黒字となった。加えて、翌年度繁忙時の運転資金繰りを確実にする為に、2025年2月13日の理事会にて、特定費用準備資金の取崩しによる固定から流動資産への振替実施(2025年4月予定)の承認を得た。2024年定時社員総会では、事前の議決権行使の電磁化に取り組み、総会当日正会員数810に対して、議決権行使総数573(内訳：電磁事前465、書面事前106、当日2)と70.7%の投票率を達成した。定期の累積収支報告に加え、月次単位の財務諸表可視化を充実することにより、財務情報の理解深化に努めつつ、潜在リスクの共有も心掛けた。また、賛助会員については、2023年度末50→2024年度末48企業・団体となった(事業5)。

委員長：睦哲也  
担当理事(2024年11月から)：睦哲也  
委員：城石芳博、坪井裕、井上幸太郎  
アドバイザー：中村道治、永野博

### 2-3 事務局

財務・事務機能強化委員会と連携して総会、理事会、企画運営会議の準備を進めるなど、共創基盤を活用して情報伝達・連絡などの支援業務の円滑で効率的な推進に努め、EAJ事業・活動の支援を図った(事業5)。

事務局長：井上幸太郎  
局員：笹間由布子、米野かおり、赤池富美子、齋藤千絵

## 3. 公益目的事業に係わる活動

会員・賛助会員の拡充、多様化によるEAJ価値創生基盤の一層の強化を図り、定款第4条に定める5事業において、2024年度事業計画に基づき、計画的に公益目的事業に関わる下記の委員会活動、支部活動を円滑かつ効果的に推進した。

### 3-1 委員会活動

#### 1) 政策提言委員会

2024年度内に幹事会2回、委員会2回の開催し、社会・科学技術潮流や会員・賛助会員の意見などを勘案しながら候補テーマの体系化を図り、EAJが取り組むべき先見的、創造的な提言に結び付く課題の検討と、トップダウン、ボトムアップ型のプロジェクトの探索を行った。

政策提言活動としては「人類の安寧とより良い生存を目指した工学倫理と工学教育」(PL：小泉英明)、「海洋プラスチック研究プロジェクト」(PL：橋本正洋)、「社会、産業、人びとの生活の変容を支える電力システムの在り方」(PL：萩本和彦、PO：城石芳博、中村道治)のプロジェクトが進行中で、「5G/6G時代のAI利活用戦略」(PL：森健策、副PL：浅間一、PO：城石芳博、中島義和、中村道治、森本浩一)については政策提言書にまとめた。また特記事項として、緊急提言「情報学・工学分野に

における女性の参画を拡大する方策」、政治家と科学者の対話の会の公表「我が国がマテリアル分野で勝ち続けるために」、新技術振興渡辺記念会調査研究助成申請書「女性エンジニアの現状とこれからのに関する調査研究」の査読を行った。また、支部発の政策提言プロジェクトの検討など、各支部および他委員会との活動の連携を図るべく検討を進めた(事業1～5)。

委員長：倉持隆雄

副委員長：谷明人

担当理事：浅間一、伊藤みほ、楠見晴重、塚原健一、長坂徹也、増田隆夫

幹事：信濃正範

委員：浅間一、長我部信行、小泉英明、小林信一、小山珠美、久田真、高木真人、塚原健一、永野智己、原山優子、坪井裕、安浦寛人、安永裕幸

アドバイザー：石原直、神崎亮平、城石芳博、長井寿、永野博、中村道治、中山智弘

## 2) 政策共創推進委員会

我が国におけるミッシングリンクである立法府とアカデミアの間の科学技術情報共有をアカデミア側からのアプローチによって少しでも現実化することにより、日本の政策立案が、ますます複雑化しつつある社会の問題により適切に対処でき、国民からも信頼されるものとなることに寄与するため、2024年度は、2020年11月13日理事会で承認された活動方針に基づき、以下を実施した(事業1～3、5)。

①委員会は、2024年6月に2名の担当理事を迎え、また5名の新委員の加入を得て体制を拡充した。第9回委員会を2025年1月27日に開催し、2025年度事業計画案の審議、2024年度活動実施結果の情報共有、総合的な意見交換などを行った。これらの結果などについては、EAJ NEWS、EAJニュースレターやHPで順次公表された。活動に対する注目度が高まり、マスメディア取材、インタビューなどを受けた。

②国会議員との意見交換として、政治家と科

学者の対話の会を開催し(第9回2024年6月3日、第10回2025年3月3日)、第10回において「我が国がマテリアル分野で勝ち続けるために(共有された考えのとりまとめ)」をとりまとめ、記者会見を行ったうえで公表した。

③参議院調査部門との共催ワークショップを開催した(第5回2025年1月22日)。

④国立国会図書館との調査・提言テーマに関する情報交換を実施した(第5回2025年1月16日)。

⑤横断的な活動を行う公的団体(9団体)と情報共有を行う「政策共創プラットフォーム」の第5回会合が2025年3月28日に開催され、委員会の活動に対する助言や提案を受けた。

⑥若手研究者(博士課程の研究者を含む)による議員インタビューの第5回目を実施した(2025年3月3日)。

委員長：永野博

\*：非会員

副委員長：長井寿

担当理事：川合知二、谷明人

委員：今村努、江村克己、大倉典子、加藤ジェーン、岸本喜久雄、久間和生、倉持隆雄、小泉英明、小林信一、小林喜光、坂田東一、信濃正範、庄司裕子、城石芳博、関谷毅、高木真人、辻篤子、坪井裕、富山哲男、中島義和、中野義彦、細野光章、牧原出、\*松尾真紀子(東京大学公共政策大学院)、睦哲也、森本浩一、安永裕幸

アドバイザー：\*角南篤(政策研究大学院大学学長特別補佐、客員教授)、\*城山英明(東京大学未来ビジョン研究センター長)

## 3) 研究力強化委員会

研究力強化に関する本部などとの意見交換会を開催し、研究力強化に係る新規賛助会員企業候補、新技術振興渡辺記念会応募、国立国会図書館2025年度委託調査などへの応募候補、若手リーダー塾、JAGFOEなどとの連携・活用策な

どについて意見交換を行うと共に、委員会を2回開催した。委員会では、研究力指標についての現状の整理を行うと共に、研究力の強化に繋がる指標の在り方などについて議論した。今後研究力指標についての深耕を継続し、研究力の強化に繋げる(事業1～5)。

委員長：杉山正和 \*：非会員  
担当理事：神崎亮平  
幹事：\*武見綾子  
委員：石田哲也、岡野栄之、川合真紀、小林傳司、関谷毅、関村直人、豊田長康、永野博、中村道治、波多野睦子、松本洋一郎、山口栄一

#### 4) 科学技術・イノベーション2050委員会

昨年度で科学技術・イノベーション2050委員会としての外部ヒアリングは一段落し、2050年の目指すべき将来像に向けた「科学技術・イノベーション」ロードマップを描くという目的の実現に向け、2024年度内に下記3回の全体委員会を開催し、今後2～3年の活動の目標を議論した(事業1～3、5)。

第1回(2024年5月17日、オンライン)今年度の活動方針について

第2回(8月7日、東京大学+ハイブリッド)話題提供「デジタルツインと防災」(有川副委員長)、今後の方向性の議論

第3回(12月27日、東京大学+ハイブリッド)技術の目的と社会的意義の明確化および、次年度の方向性の議論

全体委員会などで、機械学習やデジタルツインといった技術を社会の幸福度増進にどう活かすかについて熱心に議論した結果、幸福度に関する社会的な研究成果について委員間で共有することとし、2025年度冒頭に室蘭工業大学で研究会、ならびにSTI2050としての公開シンポジウムを開催する企画を実行することとした。

委員長：沖大幹 \*：非会員  
副委員長：有川太郎  
担当理事：沖大幹  
幹事：太田香、北島正章  
委員：有本建男、\*伊藤栄作、大竹暁、大土井

智、日下晴彦、城石芳博、玉城絵美、中島義和、永野博、行木陽子、\*矢部彰  
アドバイザー：川合真紀、中村道治、藤野陽三、松本洋一郎、安永裕幸  
オブザーバー：\*小林治、\*平川祥子

#### 5) 国際委員会

①国際工学アカデミー連合：CAETS実行委員会

CAETS2024年次総会が、フィンランド工学アカデミーの主催、“カーボン・ニュートラル技術と社会”と題して、2024年7月1～4日にヘルシンキで開催された。EAJからは、中島義和会員が参加した。

理事会及び評議会では、予算等に加え、新会長を含む新理事会メンバーが承認された。年次総会はCAETS加盟国(33ヶ国)が持ち回りで開催し、年次総会開催国がその年の会長国となる。2025年は9月8～11日に豪ブリスベンで「Generations - 今後50年を見通した持続可能な未来」をテーマとして開催され、2026年は7月に独ミュンヘンで開催される。我が国での開催(2007年以来)は、2031年以降に期待されており今後調整を行う。

総会と併せて開催されるシンポジウムでは、フィンランド科学文化大臣等の挨拶に続き、「より強固なシステム観によるエネルギー転換の加速」、「漸進的变化を超えて」と題した基調講演、カーボン・ニュートラル技術、持続可能なバイオ製品開発の加速、エネルギーと社会、新しいバイオ製品のスケールアップ等のセッションが行われ、カーボン・ニュートラル技術と社会に関するパネルディスカッションで幕を閉じた(事業4)。

委員長：森本浩一

②東アジア工学アカデミー円卓会議：EA-RTM実行委員会

第27回EA-RTMが2024年11月28日にCAE主催により、“Artificial Intelligence Governance”のテーマでオンライン開催された。シンポジウム冒頭、EAJからは原山優子栄誉フェローが挨拶

撈を行った。ホストアカデミーであるChinese Academy of Engineering (CAE) に感謝するとともに、今回のテーマである“AIのガバナンス”が非常にタイムリーなトピックである事、また3アカデミー共通の課題を抽出して議論してゆくことの意義を説く内容であった。

シンポジウムでは、EAJから中島義和会員、森健策会員、原山優子荣誉フェローがそれぞれ講演を行った。円卓会議の部では、EAJからは森本前常務理事が一年間の活動報告を行った。今回の技術協力に関するアンケートの結果がCAEから説明がなされた後、次回開催案の説明を三島実行委員長が行った。次回2025年の開催はEAJがホストとなり、“In Pursuit of Well-Being in an Aging Society (案)”のテーマで2025年10月に開催する予定である(事業4)。

委員長：三島望

#### ③日米先端工学シンポジウム：JAFOE実行委員会

JAFOE実行委員会は第2回Frontier of Engineering (FoE) Japanを2024年6月14日から16日にかけて開催した。FoE Japanは過去のJAFOE参加者および現役のJAFOE参加予定者が研究分野の動向紹介ならびに運営方針の交換を行う場として2022年から実施しているものである。第2回FoE Japanは「サステナブル社会のためのエンジニアリング」をテーマに山形大学米沢キャンパスで開催され、原山優子荣誉フェローによる趣旨説明、佐々木直哉氏による招待講演のほか、古川英光会員による3Dフードプリンティングの実演など充実した内容で実施された。また第2回FoE Japanでは2023年および2025年のJAFOE運営委員長および運営委員ら全員が参加し、JAFOEの運営方針の十分な引き継ぎが行われた。なお、JAFOE実行委員会はJAFOE 2025運営のための寄付募集活動および参加者選定活動も積極的に行っている(事業4、事業5)。

委員長：金谷一郎

委員：中島義和、古川英光、村上晃一

アドバイザー：原山優子、森本浩一、村上秀之

#### ④日豪若手研究者交流促進事業：ERLEP実行委員会

第4回環学的新学術フォーラム2024 (The 4th ERLEP Trans-disciplinary Forum 2024) を2024年11月21日～22日の日程でメルボルンにて開催した。今回は派遣型ERLEP事業を復活させ、その後日程としてフォーラム型事業である第4回フォーラムを組み合わせたハイブリッド型事業として開催した。公募によって選ばれた若手研究者3名はフォーラム直前の1週間にわたりシドニー、ブリスベンおよびメルボルンにおいて、複数の研究機関を訪問した後、メルボルンに集合しフォーラム(出席者数30名、内日本側7名、豪州側23名)に出席した。パンケットでは、在メルボルン日本国総領事館より古谷徳郎総領事のご来賓を賜った。第5回フォーラムは2026年に日本にて開催する予定である(事業4、事業5)。

委員長：大橋俊朗

委員：伊藤一秀

アドバイザー：長井寿

#### ⑤日独先端工学プログラム：JAGFOE実行委員会

日米先端工学シンポジウム(JAFOE)及び日豪若手研究者交流促進事業(ERLEP)の実績をもとに、日欧の軸を構築すべく、その足掛かりとしてドイツを対象に二国間の若手研究者交流事業「日独先端工学プログラム」を推進することとした。ドイツ側は、National Academy of Science and Engineering (acatech)、Alexander von Humboldt Foundation (AvH)、Volkswagen Foundation、DAAD Regional Office Tokyoが共催機関となり、STS Forum 2024においてEAJが開催する工学アカデミー会長会議(AEPM)の機会にEAJとこれらの機関の代表者の間で意向表明書(LOI)を取り交わした。また、共同議長に成田明光氏とSarah Fischer氏が就任した(事業4、事業5)。

委員長：原山優子  
アドバイザー：永野博

#### ⑥工学アカデミー会長会議 (AEPM)

2024年10月7日、STSフォーラム年次総会の一環として、「AIと工学教育」をテーマにAEPMをハイブリッド方式で開催。6カ国の工学アカデミー会長等が参加（原山国際委員長がFacilitator）。

冒頭、安西会長から開会挨拶を行い、続いて、STSフォーラム小宮山議長から、歓迎の挨拶があった。会議の趣旨説明を受けて、各参加者より「AIと工学教育」に関して、各国・地域における取組の現状や今後の方向性について、プレゼンテーションが行われた。AIを巡る急速な技術革新により、人間の知的活動に幅広い変革がもたらされ、その可能性に大きな期待が寄せられる一方、ELSIや著作権侵害、偽情報による混乱など、様々な懸念やリスクが顕在化。生成AIの活用が広がる中で、人間中心の観点を重視しつつ、工学教育における整合性のあるルール作りや実践事例の共有等について、意見交換を実施した（事業5）。

委員長：森本浩一

#### 国際委員会

委員長：原山優子  
副委員長：森本浩一  
担当理事：田口康  
実行委員会：森本浩一 (CAETS)、  
三島望 (EA-RTM)、  
金谷一朗 (JAFOE)、  
大橋俊朗 (ERLEP)、  
永野博 (JAGFOEアドバイザー)  
委員：伊藤一秀、杉山正和、中島義和、古川英光、村上晃一、村上秀之 (JAFOEアドバイザー)  
アドバイザー：岸輝雄、小泉英明、長井寿、永野博、中村道治

#### 6) 人材育成委員会

2024年度は委員長、副委員長などが交代し、

新体制で、アドバイザーとの打ち合わせ会、委員会をそれぞれ1回開催するとともに、内規見直しなどに関してメール審議を実施した。

特記事項として、若手リーダー塾実行委員会、若手委員会と連携して、第2回若手リーダー塾としてフューチャーリーダーズフォーラム“国際人材へ成長する新たな視座”の企画・立案をした（事業5）。

委員長：辻佳子 \*：非会員

副委員長：大村直人

担当理事：渡邊政嘉

委員：\*小豆畑茂、犬塚隆志、上野晴樹、大江田憲治、大嶋正裕、大村直人、坂田東一、瀬戸口剛、染谷隆夫、高山誠、長坂徹也、久枝良雄、水谷法美、安永裕幸

アドバイザー：石原直、大島まり、金谷一朗、岸本喜久雄、小林信一、城石芳博、中島義和、中村道治、村上秀之、横山直樹

#### 7) 若手委員会

2024年度は、急速に進展するデジタルトランスフォーメーションや複雑化する社会における新たな課題に向き合い、工学の未来に関する議論を若手ならではの視点から喚起することを目指して活動を行った。特に、20代から30代前半の若手研究者・技術者が活躍できる環境整備を最重要テーマに据え、委員会内外の対話を通じて、持続可能な社会やイノベーション創出に資する人材育成の在り方を多角的に検討した。

2023年度から新たに委員に加わった30代の若手研究者10名を中心に、今年度は3回にわたる討論会を開催。若手研究者を取り巻く課題（研究資金や研究基盤の在り方、キャリアの多様性、研究と生活のバランスなど）を共有しながら、研究者自身が社会課題の解決や価値創出に積極的に関与できる環境について議論した。また、単なる問題提起にとどまらず、次世代が持続的に成長・挑戦できる制度や支援策のあり方にも議論を広げ、委員会としての発信に向けた論点整理を進めた。

さらに、若手委員会では国際化や世界で活躍できる人材の育成を重視し、2025年4月に開催を予定している「第2回EAJ若手リーダー塾“EAJフューチャーリーダーズフォーラム～未来を拓く国際人材へ成長する新たな視座～”」の準備を進めてきた。本企画は、企業・大学・官公庁の次世代リーダー候補が一堂に会し、国際的視野と実践的な知見を持つ講師陣との対話を通じて、新たな学びとネットワークを得ることを目的とする。開催に向けては、若手委員会の新メンバーとも密に意見交換を重ね、現場の若手が真に求める成長機会とは何かを問い直しながら、実践的なプログラム設計を進めた。

これらの活動を通じて、若手の声に根ざした議論を起点に、政策提言や社会発信へとつなげる基盤が着実に整いつつある。若手委員会は今後も、異なる立場・分野を越えた対話と共創を促進し、未来の工学と社会に貢献する人材育成と環境整備に取り組んでいく(事業5)。

委員長：関谷毅 \*：非会員  
副委員長：永野智己  
担当理事：関谷毅  
委員：\*小川純、\*小野悠、伊藤一秀、川原圭博、\*鈴木裕之、\*竹内雄一郎、\*多田隈建二郎、\*永谷圭司、\*成瀬彰、\*沼澤修平、\*畠山智行、\*馬場雪乃、\*林浩平、古川英光、松尾豊、\*松塚貴英、\*保田淑子、\*山内元貴  
アドバイザー：嘉門雅史、中島義和、中村道治

## 8) ジェンダー委員会

2024年度は5回の委員会を開催するとともに、内規確認、緊急提言、第8回シンポジウムなどに関してのメール審議、および、第8回ダイバーシティに関するGood Practice「藤田あき美先生(a.k.a 天文物理学者BossB)にインタビュー」を実施した。

特記事項として、安西祐一郎会長との意見交換会を開催し、議論の結果を緊急提言「情報学・工学分野における女性の参画を拡大する方策」として発出した。関連して、2025年3月7日には、

理工学系女子学生の大学院進学問題をとりあげ、女子学生の数と企業の必要枠のギャップが分野、地域ごとに異なることなどに着目し、第1部で、受け入れ側の大学側が整備すべき取り組みについて、第2部で、研究者の登竜門となる大学院進学段階において、研究職を志す女性の底上げについて議論する第8回ジェンダーシンポジウム「理工系女子学生はなぜ大学院に進学しないのか？」を開催した。さらに2024年度の活動方針である「ジェンダー委員会内での知識共有：各界のダイバーシティ関係の知見を共有し、委員の啓発ならびに視野を広げ、多様性のある活動推進に役立てる」の一環として第1回ジェンダー委員会勉強会を実施した。今後、更なる活性化につなげる(事業1～3)。

委員長：行木陽子 \*：非会員  
副委員長：城石芳博、川村みどり  
担当理事：行木陽子  
幹事：鹿野豊、田中真美  
委員：\*伊藤貴之、\*榎原毅、大倉典子、塩満典子、玉田薫、辻ゆかり、鳥居塚崇、中島義和、中村淳、森田純恵  
アドバイザー：石原直、大野英男、陳迎、辻佳子、長坂徹也、原山優子、平尾明子、森勇介、渡辺美代子  
卒業した学生委員：\*秋山茉莉子、\*寺林稜平、\*佐々木勇輔、\*Jin Yi、\*堀内榛香、\*峯村梓、\*依田みなみ

## 9) 広報委員会

2024年度は2回の委員会を開催するとともに、6回のパンフレット作製などに関するメール審議を実施し、以下の活動を行った(事業3)。

- ①EAJの季刊誌「EAJ NEWS」を4回、活動報告2023/2024、39件のEAJニュースレターを発行するなど、積極的な情報発信を行った。
- ②見開き4ページのEAJパンフレット2024を作成し、支部・委員会に1,000部配布し、広報活動に活用した。

- ③パンフレットの表紙を活用してHPを刷新、さらに協賛金（寄附金）ご支援のお願いを掲載するなど、依頼数ベースで年間247件ホームページを更新するなど、会員サービスの一層の向上に務めた。

委員長：安永裕幸

副委員長：城石芳博

担当理事（2024年11月から）：睦哲也

委員：岡田益男、小野由理、金谷一郎、小山珠美、田中敏宏、辻佳子、原邦彦

### 3-2 支部活動

地区活動は1993年に始まり、2011年に九州支部、2012年に北海道・東北支部、2016年に中部支部、2018年に関西支部が設立された。2020年に北海道支部が北海道・東北支部から発展的に独立し、各地区の特質に根差した発展に貢献すべく、産学官民連携による5支部体制で活動中である。今後、上記以外の地域においても、地区講演会の開催などを通じて、地域の活性化の基盤と会員の増強に努め、全ての地域で支部を結成し、EAJならではの活動を会員の居住地で行うとともに、会員ゼロの県をなくす努力を継続する（事業5）。

支部担当理事

北海道支部	瀬戸口剛
東北支部	田中真美
中部支部	岩井善郎
関西支部	大村直人
九州支部	久枝良雄

#### 1) 支部長会議

これまでの情報共有議論に加え、一層の委員会と支部との連携強化、エンゲージメントの向上、産業界出身会員拡充などにつなげることを目的に、2024年11月13日にオンライン第7回支部長会議を開催し、支部、委員会、本部間の意見交換を行った（事業5）。

国際連携に係る支部のノウハウの共有、高校生などを対象にした表彰制度によるEAJのプレゼンス向上、支部開催による「政治家と科学者

の対話の会」の開催、諸会議の効率的な運営方式の在り方、研究力強化に係る支援策の検討と提言、企業の非会員との日頃の連携と企業トップに訴求しやすいEAJメリットの明確化、活動概要やパンフレットのアップデート、産業界トップとの繋がり再強化、中小企業対象の報奨制度の活用、企業が興味を持ってくれるような企画の立案、システムとして多様な分野を統合した事業観に基づく目標設定・地域連携の事例の収集・発信と実践、本部、支部、委員会の連携強化による一層の事業活性化、など示唆に富む議論が活発に行われた。EAJ諸活動の一層の活性化に活用する（事業5）。

#### 2) 北海道支部

42名（正会員41名、客員会員1名）

- ①新たな試みとして研究発表会を開催した。

第1回研究発表会（2025年1月21日）（安西祐一郎会長参加）

- ②共催シンポジウムを以下のように開催した。

・「先端半導体が拓く未来社会と人材育成」（2025年2月14日）

・「産学共創によるイノベーション創出～大学・日本再生への道とは～」（2025年3月21日）

- ③協賛講演会を以下のように開催した。

・米国航空宇宙研究者講演会「世界の宇宙産業のチャレンジ」（2024年7月17日）

・「ジェンダー・イノベーションのためのデータサイエンスと可視化」（2024年8月29日）

- ④活動：NICHe未来科学オープンセミナーの協賛など

支部長：瀬戸口剛

副支部長：榮坂俊雄、幅崎浩樹、松田瑞史

専務理事：川村みどり

#### 3) 東北支部

104名（正会員97名、客員会員7名）

- ①講演会を以下のように主催した。

・「産学共創によるイノベーション創出～大

学・日本再生への道とは～」(2024年3月21日)

- ②講演会を以下のように共催した。
  - 日本工学アカデミー (EAJ) JAFOE実行委員会主催「サステナブル社会のためのエンジニアリング」(6月14日)
- ③セミナー、研究会などを以下のように協賛した。
  - 東北大学未来科学技術共同研究センター (NICHe)「未来科学オープンセミナー」7回開催  
2024年：5月31日、6月21日、7月26日、9月6日、10月3日、11月14日  
2025年：1月7日
  - 北海道大学工学研究院主催 (米国航空宇宙研究者講演会)「世界の宇宙産業のチャレンジ」(2024年7月17日)
  - 北見工業大学ダイバーシティ推進室主催「ジェンダード・イノベーションのためのデータサイエンスと可視化」(2024年8月29日)
  - 北海道工学教育協会主催研究集会「先端半導体が拓く未来社会と人材育成」(2025年2月14日)
- ④活動：令和6年度第1回東北支部理事会開催 (2025年3月21日)

支部長：神本正行  
副支部長：長坂徹也、岡田益男  
専務理事：足立幸志

#### 4) 中部支部

- 78名 (正会員75名、客員会員3名)
- ①講演会を以下のように主催した。
    - 第20回EAJ中部レクチャー「リベラルアーツと工学の融合、未来社会への提言」(2024年9月20日)
  - ②講演会を以下のように協賛した。
    - EAJ関西支部第12回講演会「工学と教養－常識を疑う常識－」(2024年9月27日)
    - EAJ関西支部第13回講演会「科学と技術の融合が生み出す量子コンピュータ研究の最前線」(2024年12月16日)

- ③活動：中部支部では「未来社会を工学する」の理念をもとに、支部の特徴を活かした活動を企画・実施し、会員間の連携の活性化と産学間の繋がり強化に努めてきている。
  - EAJC通信第8号発行

支部長・運営委員会委員長：林良嗣  
副支部長：岩井善郎、太田光一、原邦彦  
幹事長：葛漢彬  
副幹事長：辻篤子  
企画推進部会委員：  
伊藤みほ、太田光一、川澄未来子、葛漢彬  
企業連携部会委員：  
下山勲、水谷法美、原邦彦  
広報・アーカイブ部会委員：  
岩井善郎、辻篤子、八重樫武久

#### 5) 関西支部

- 109名 (正会員101名、客員会員8名)
- ①運営委員会を以下のように開催した。
    - 2025年3月14日、25日、27日
  - ②講演会を以下のように開催した。
    - 2024年9月27日：日本工学アカデミー関西支部第12回講演会「工学と教養－常識を疑う常識－SDGs, グローバリズム, アントレプレナーシップ, …」(神戸大学大学院工学研究科・オンライン併用開催)
    - 2024年12月16日：日本工学アカデミー関西支部第13回講演会「科学と技術の融合が生み出す量子コンピュータ研究の最前線」(大阪大学南部陽一郎ホール・施設見学会同時開催)
  - ③講演会を以下のように協賛した。
    - 2024年9月20日：第20回中部レクチャー「リベラルアーツと工学の融合、未来社会への提言」

支部長：田中敏宏  
委員(幹事)：立川康人、大政健史、小池淳司  
委員：尾上孝雄、大村直人、和田成生、河原克己、松村浩一、堤和彦、石出孝、小田一郎

## 6) 九州支部

51名（正会員46名、客員会員5名）

①次のように講演会を2回開催した。

- 2024年10月30日：日本工学アカデミー九州支部2024年度講演会

講師：辰己丈夫 氏、小山内康人 氏

会場：九州大学筑紫ホール（九州大学筑紫キャンパス総合研究棟1F）

- 2024年12月13日：熊本高等専門学校出張講演会

講師：平井康之 氏

会場：同校3年生を対象としたハイブリッド開催（同校熊本キャンパス1号棟ICTホールおよびオンライン）

②次のとおり共催・後援シンポジウム等を開催した。

- 九州工学教育協会との共催シンポジウム

✓ 2025年2月4日：第17回九州工学教育協会シンポジウム「九州の大学・高専にお

ける半導体産業の人材育成」、会場：ハイブリッド開催（リファレンス駅東ビル2F会議室Y-1およびオンライン配信）

- インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムとの後援イベント

✓ 2024年10月9日：第10回ピッチイベント「広域、複数、多分野のインフラ群の一体的マネジメントへの総力戦」、会場：ハイブリッド開催（福岡国際会議場およびオンライン配信）

支部長：山田淳

副支部長：高松洋、谷口功、日野伸一

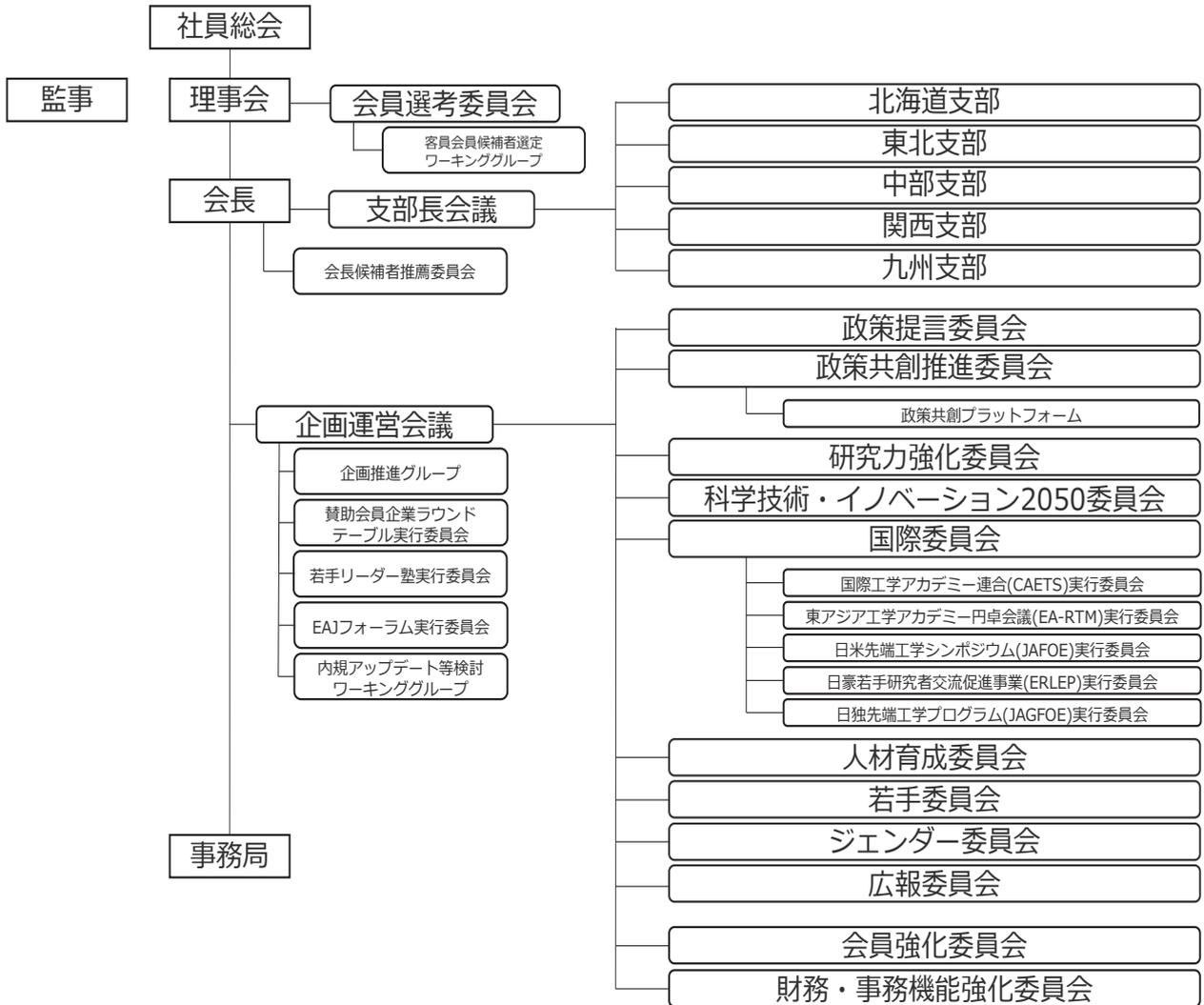
ほか、理事及び名誉理事、名誉顧問

## 7) その他

EAJならではの活動を全地域で行うべく、中国・四国支部の設立に向け、地域の特長を生かした多様な会員の増強を行った（事業5）。

# 2024年度 組織図

(2025年3月31日現在)



## 2024年度 役員名簿

### 〈役員〉

(2025年3月31日現在)

会 長	安西祐一郎			
副会長(会長代理)	岸本喜久雄			
副 会 長	五十嵐仁一	大島 まり	川合 眞紀	
専 務 理 事	城石 芳博**			
常 務 理 事	坪井 裕	睦 哲也**		
理 事	浅間 一	伊藤 みほ	岩井 善郎	大村 直人
	沖 大幹	川合 知二	神崎 亮平	楠見 晴重
	小林 信一	塩満 典子	関谷 毅	瀬戸口 剛
	田口 康	田中 真美	谷 明人	塚原 健一
	長坂 徹也	中山 智弘	行木 陽子	久枝 良雄
	増田 隆夫	渡邊 政嘉		

以上 理事30名

\*\* 常勤

監 事	辻 篤子	林 秀樹
-----	------	------

以上 監事2名

### 〈名誉会長・顧問〉

最 高 顧 問	吉川 弘之	小宮山 宏	阿部 博之	
名 誉 会 長	小林 喜光			
顧 問	青山 博之	池田 駿介	梶山 千里	神山 新一
	嘉門 雅史	久間 和生	國武 豊喜	小泉 英明
	谷口 功	種市 健	中西 友子	中村 道治
	永野 博	菱田 公一	堀 幸夫	松尾 友矩
	松本洋一郎	御園生 誠	三井 恒夫	宮城 光信
顧問・栄誉フェロー	原山 優子			

以上 顧問21名

# 2024年度 収支決算

## 【全体概況】

2024年度収支決算の概要について、従来同様の収支計算書に準拠し、次の通り取りまとめた。

(単位：千円)

	2024年度予算 (A)	2024年度決算額 (B)	(B) - (A) 差額
事業活動収入	68,529	70,127	1,598
事業活動支出	68,529	62,230	△ 6,299
事業活動収支差額	0	7,897	7,897
投資活動収支差額	△ 460	△ 4,449	△ 3,989
予備費支出	0	0	0
当期収支差額	△ 460	3,447	3,907
前期繰越収支差額	20,611	20,611	0
次期繰越収支差額	20,151	24,058	3,907

## 1. 事業活動収入

個人会員、賛助会員会費の貢献に加え、(一財)新技術振興渡辺記念会調査研究助成金収入、国際関係寄付金等収入により、予算額に対して、1,598千円の増額となった。

事業活動収入 (内訳)	70,127千円
個人会員会費収入	27,170千円
賛助会員会費収入	30,200千円
調査研究助成金収入	8,929千円
寄附金等収入	3,828千円

## 2. 事業活動支出

国際活動を中心とした対外活動の復活に合わせ、内外情勢変化による物価高騰の影響を受け、全体として、国際事業の寄附金対応、外部助成金に基づく事業活動は、形態や主要支出時期を予め想定し、全体的な資金繰りとの関係も勘案しながら取り進めた。結果として、個別予算と乖離した支出はあるものの、各事業の戦略的な位置づけを確認しつつ、会員間の対面による交

流の場の復活や広報活動等次年度への継続性も念頭に置き、若手リーダー塾次年度実施、各支部経費の節減、事務局経費の節約等可能な限りの原資配分を実施した。その結果、事業活動支出は、予算額に対して6,299千円の減額となった。

事業活動支出 (内訳)	62,230千円
公益目的事業支出	52,392千円
管理費支出	9,838千円

## 3. 当期収支差額

以上より、事業活動収支差額は、7,897千円の黒字となり、投資活動収支の部において収支差額は4,449千円のマイナスを計上しましたが(退職給付引当預金取得支出760千円、国際活動に係る特定資産取得支出6,800千円、ERLEP取崩収入3,111千円)、当期収支差額は、3,447千円の黒字となった。

## 4. 次期繰越収支差額

これより、次期繰越収支差額は、24,058千円

となり、当面の事業活動に必要な繰越金は確保出来た。

## 5. その他

- 1) 諸物価高騰の折、個人会費収入に過度な期待は出来ず、また、賛助会員企業の状況も厳しく、大口の退会希望が続出しており、2025年度に向けて対策が急務である。一方で公益事業の活発化に伴う支出増は今後も

避けることが出来ない為、例年の傾向に鑑みて、期初の活動の安定化に配慮する必要がある。それには、運転資金源である流動資産の引き上げが必須となるので、CAETS2030開催準備資金計画の見直しを決定し、2025年度に特定費用準備金の取り崩し、国際関係事業及び公益事業の推進のため使用することとした。(2025年2月13日理事会承認)

# 収支計算書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	子 算 額		決 算 額		差 異	
<b>I 事業活動収支の部</b>						
事業活動収入						
1 会費収入						
個人会員会費収入	27,000,000		27,170,000		△ 170,000	
賛助会員会費収入	32,600,000	59,600,000	30,200,000	57,370,000	2,400,000	2,230,000
2 事業収入						
業務受託収入	0	0	0	0	0	0
3 負担金収入						
負担金収入	8,929,000	8,929,000	8,929,000 *1	8,929,000	0	0
4 寄付金収入						
寄付金収入	0	0	3,800,000 *2	3,800,000	△ 3,800,000	△ 3,800,000
5 雑収入						
受取利息収入	0		27,923		△ 27,923	
雑収入	0	0	0	27,923	0	△ 27,923
事業活動収入計		68,529,000		70,126,923		△ 1,597,923
事業活動支出						
1 事業費支出						
企画運営会議費		150,000		198,355		△ 48,355
会員選考委員会費		75,000		0		75,000
会員強化委員会費		80,000		0		80,000
財務・事務機能強化委員会費		0		0		0
人材育成委員会費		1,000,000		0		1,000,000
若手委員会費		700,000		9,594		690,406
ジェンダー委員会費		400,000		212,524		187,476
科学技術イノベーション2050委員会費		550,000		129,328		420,672
政策提言委員会費						
政策提言委員会	800,000		30,407		769,593	
渡辺記念会（5G/6G時代のAI活用戦略）	2,926,000		2,942,300		△ 16,300	
海洋プラスチック研究プロジェクト	0		0		0	
政策提言とその法制化	0		0		0	
レジリエント電力ネットワーク	200,000		333,797		△ 133,797	
渡辺記念会（未来の製造業における新たな学術領域構築のための調査研究）	3,000,000		3,009,723		△ 9,723	
渡辺記念会（来るべき未来の工学倫理と工学教育）	3,000,000		0		3,000,000	
超高齢化社会における科学技術・イノベーションのあり方	0	9,926,000	0	6,316,227	0	3,609,773
国際委員会費						
CAETS	1,750,000		1,575,625		174,375	
AEPM (STS)	200,000		179,518		20,482	
EA-RTM	200,000		18,110		181,890	
JAFQE	200,000		18,484		181,516	
ERLEP	1,500,000		3,110,825		△ 1,610,825	
JAGFOE	0	3,850,000	36,520	4,939,082	△ 36,520	△ 1,089,082
国際会議		0		0		0
広報委員会費		4,205,000		4,023,743		181,257
企画推進グループ（談話サロン等経費）		750,000		385,223		364,777
政策共創推進委員会		1,200,000		699,851		500,149
会長候補者推薦委員会		25,000		0		25,000
研究力強化委員会		100,000		0		100,000
支部活動費						
支部長会議	25,000		145,481		△ 120,481	
北海道支部	525,000		514,571		10,429	
東北支部	550,000		22,179		527,821	
中部支部	680,000		127,551		552,449	
関西支部	550,000		649,392		△ 99,392	
九州支部	525,000	2,855,000	287,784	1,746,958	237,216	1,108,042
グローバル化・デジタル化対応		0		0		0
公益事務費		33,021,000		33,731,155		△ 710,155
2 管理費支出						
総会費	1,212,000			1,385,213		△ 173,213
理事会費	400,000			280,730		119,270
法人事務費	8,030,000			8,172,136		△ 142,136
事業活動支出計		68,529,000		62,230,119		6,298,881
事業活動収支差額		0		7,896,804		△ 7,896,804
<b>II 投資活動収支の部</b>						
投資活動収入						
1 特定資産取崩収入						
日豪若手研究者交流促進事業取崩収入	0		3,110,825		△ 3,110,825	
投資活動収入計				3,110,825		△ 3,110,825
投資活動支出						
1 特定資産取得支出						
退職給付引当預金取得支出		460,000		760,100		△ 300,100
日豪若手研究者交流促進事業取得支出		0		3,500,000		△ 3,500,000
日独先端工学シンポジウム取得支出		0		2,500,000		△ 2,500,000
日米先端工学シンポジウム取得支出		0		800,000		△ 800,000
投資活動支出計		460,000		7,560,100		△ 7,100,100
投資活動収支差額		△ 460,000		△ 4,449,275		3,989,275
<b>III 財務活動収支の部</b>						
財務活動収支差額		0		0		0
<b>IV 予備費支出</b>						
予備費支出		0		0		0
当期収支差額		△ 460,000		3,447,529		△ 3,907,529
前期繰越収支差額		20,610,844		20,610,844		0
次期繰越収支差額		20,150,844		24,058,373		△ 3,907,529

\*1 ERLEP助成金収入（東京倶楽部：2,000,000円、くら基金：1,000,000円）  
 新技術振興渡辺記念会からの令和5年度上期 科学技術調査研究助成収入3,000,000円、  
 新技術振興渡辺記念会からの令和5年度下期 科学技術調査研究助成収入2,929,000円

\*2 ERLEP寄附金収入 500,000円  
 JAGFOE寄付金収入 2,500,000円  
 JAFQE寄附金収入 800,000円

**事業別正味財産増減計算書**  
(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	予算額			決算額			差 異		
	公益目的事業会計	法人会計	合計	公益目的事業会計	法人会計	合計	公益目的事業会計	法人会計	合計
I一般正味財産増減の部									
経常増減の部									
経常収益									
1受取会費									
個人会員受取会費	13,500,000	13,500,000	27,000,000	13,585,000	13,585,000	27,170,000	△ 85,000	△ 85,000	△ 170,000
賛助会員受取会費	32,600,000	0	32,600,000	30,200,000	0	30,200,000	2,400,000	0	2,400,000
2事業収益									
業務受託収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3受取負担金									
受取負担金	8,929,000	0	8,929,000	8,929,000	0	8,929,000	0	0	0
4受取寄付金									
受取寄付金	0	0	0	500,000	0	500,000	△ 500,000	0	△ 500,000
5雑収益									
受取利息	0	0	0	27,923	0	27,923	△ 27,923	0	△ 27,923
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	55,029,000	13,500,000	68,529,000	53,241,923	13,585,000	66,826,923	1,787,077	△ 85,000	1,702,077
経常費用									
1事業費									
企画運営会議費	150,000			198,355			△ 48,355		
会員選考委員会費	75,000						75,000		
会員強化委員会費	80,000						80,000		
財務・事務機能強化委員会費	0						0		
人材育成委員会費	1,000,000						1,000,000		
若手委員会費	700,000			9,594			690,406		
ジェンダー委員会費	400,000			212,524			187,476		
科学技術イノベーション2050委員会費	550,000			129,328			420,672		
政策提言委員会費									
政策提言委員会	800,000			30,407			769,593		
渡辺記念会(5G/6G時代のAI活用戦略)	2,926,000			2,942,300			△ 16,300		
海洋プラスチック研究プロジェクト	0						0		
政策提言とその法制化	0						0		
レゾリエント電力ネットワーク	200,000			333,797			△ 133,797		
渡辺記念会(未来の製造業における新たな学術領域構築のための調査研究)	3,000,000			3,009,723			△ 9,723		
渡辺記念会(来るべき未来の工学倫理と工学教育)	3,000,000						3,000,000		
超高齢化社会における科学技術イノベーションのあり方	0	9,926,000		6,316,227			0	3,609,773	
国際委員会費									
CAETS	1,750,000			1,575,625			174,375		
AEPM(STS)	200,000			179,518			20,482		
EA-RTM	200,000			18,110			181,890		
JAFOE	200,000			18,484			181,516		
ERLEP	1,500,000			3,110,825			△ 1,610,825		
JAGFOE	3,850,000			36,520	4,939,082		△ 36,520	△ 1,089,082	
国際会議	0								0
広報委員会費	4,205,000			4,023,743			181,257		
企画推進グループ(談話サロン等経費)	750,000			385,223			364,777		
政策共創推進委員会	1,200,000			699,851			500,149		
会長候補者推薦委員会	25,000						25,000		
研究力強化委員会	100,000						100,000		
支部活動費									
支部長会議	25,000			145,481			△ 120,481		
北海道支部	525,000			514,571			10,429		
東北支部	550,000			22,179			527,821		
中部支部	680,000			127,551			552,449		
関西支部	550,000			649,392			△ 99,392		
九州支部	525,000	2,855,000		287,784	1,746,958		237,216	1,108,042	
グローバル化・デジタル化対応	0								0
公益事務費	33,021,000		58,887,000	34,100,628		52,761,513	△ 1,079,628		6,125,487
2管理費									
総会費		1,212,000			1,365,213			△ 173,213	
理事会費		400,000			280,730			119,270	
法人事務費		8,030,000	9,642,000		8,273,974	9,939,917		△ 243,974	△ 297,917
経常費用計	58,887,000	9,642,000	68,529,000	52,761,513	9,939,917	62,701,430	6,125,487	△ 297,917	5,827,570
当期経常増減額	△ 3,858,000	3,858,000	0	480,410	3,645,083	4,125,493	△ 4,338,410	212,917	△ 4,125,493
経常外増減の部									
1経常外収益									
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2経常外費用									
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額									
当期一般正味財産増減額	△ 3,858,000	3,858,000	0	480,410	3,645,083	4,125,493	△ 4,338,410	212,917	△ 4,125,493
一般正味財産期首残高			35,448,912			35,448,912			0
一般正味財産期末残高			35,448,912			39,574,405			△ 4,125,493
II指定正味財産増減の部									
1受取寄附金									
受取寄附金			0	3,300,000		3,300,000			△ 3,300,000
当期指定正味財産増減額			0	3,300,000		3,300,000			△ 3,300,000
指定正味財産期首残高			0			0			0
指定正味財産期末残高			0			3,300,000			△ 3,300,000
III正味財産期末残高			35,448,912			42,874,405			△ 7,425,493

※ 当期指定正味財産増減額は、JAGFOEの寄附金2,500,000円とJAFOEの寄附金800,000円

## 貸借対照表

令和7年3月31日現在

(単位: 円)

勘定科目	当年度 (令和7年3月31日)	前年度 (令和6年3月31日)	増減
<b>I 資産の部</b>			
流動資産			
現金預金	29,142,337	30,177,024	△ 1,034,687
現金一般	118,045	114,063	3,982
普通預金			
みずほ銀行芝支店	22,409,494	25,375,442	△ 2,965,948
三菱UFJ銀行田町支店	3,225,191	1,269,322	1,955,869
郵便振替貯金	3,389,607	3,418,197	△ 28,590
未収金	939,000	90,000	849,000
前払金	1,860,328	1,039,385	820,943
立替金	3,300	0	3,300
流動資産合計	31,944,965	31,306,409	638,556
固定資産			
特定資産			
退職給付引当預金	2,588,800	1,828,700	760,100
CAETS開催準備資金	11,000,000	11,000,000	0
日豪若手研究者交流促進事業預金	389,175	0	389,175
日独先端工学シンポジウム預金	2,500,000	0	2,500,000
日米先端工学シンポジウム預金	800,000	0	800,000
特定資産合計	17,277,975	12,828,700	4,449,275
その他固定資産			
建物附属設備	445,057	497,879	△ 52,822
什器備品	735,816	889,205	△ 153,389
ソフトウェア	0	0	0
電話加入権	74,984	74,984	0
敷金	2,376,000	2,376,000	0
その他固定資産合計	3,631,857	3,838,068	△ 206,211
固定資産合計	20,909,832	16,666,768	4,243,064
資産合計	52,854,797	47,973,177	4,881,620
<b>II 負債の部</b>			
流動負債			
未払金	514,580	295,087	219,493
前受金	6,993,500	9,667,500	△ 2,674,000
預り金	378,512	732,978	△ 354,466
流動負債合計	7,886,592	10,695,565	△ 2,808,973
固定負債			
退職給付引当金	2,093,800	1,828,700	265,100
固定負債合計	2,093,800	1,828,700	265,100
負債合計	9,980,392	12,524,265	△ 2,543,873
<b>III 正味財産の部</b>			
指定正味財産			0
寄付金	3,300,000	0	3,300,000
指定正味財産合計	3,300,000	0	3,300,000
一般正味財産	39,574,405	35,448,912	4,125,493
(うち特定資産への充当額)			
正味財産合計	42,874,405	35,448,912	7,425,493
負債及び正味財産合計	52,854,797	47,973,177	4,881,620

# 正味財産増減計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位: 円)

科目	当年度 (令和6年4月1日～ 令和7年3月31日)	前年度 (令和5年4月1日～ 令和6年3月31日)	増減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
経常増減の部			
経常収益			
受取会費	57,370,000	58,990,000	△ 1,620,000
個人会員受取会費	27,170,000	26,990,000	180,000
賛助会員受取会費	30,200,000	32,000,000	△ 1,800,000
事業収益	0	0	0
業務受託収益	0	0	0
受取負担金	8,929,000	9,912,000	△ 983,000
受取負担金	8,929,000	9,912,000	△ 983,000
受取寄付金	500,000	0	500,000
受取寄付金	500,000	0	500,000
雑収益	27,923	452	27,471
受取利息	27,923	452	27,471
雑収益	0	0	0
経常収益計	66,826,923	68,902,452	△ 2,075,529
経常費用			
事業費	52,761,513	63,231,164	△ 10,469,651
役員報酬	4,386,000	4,386,000	0
給料手当	16,507,045	15,501,755	1,005,290
その他の労務費	1,455,364	3,179,114	△ 1,723,750
退職金		127,500	△ 127,500
役員退職金	140,250		140,250
退職給付費用	505,835	494,105	11,730
法定福利費	2,598,345	2,868,037	△ 269,692
福利厚生費	60,203	41,815	18,388
慶弔費	0	0	0
旅費交通費	8,377,959	11,654,358	△ 3,276,399
通信運搬費	1,355,591	1,331,758	23,833
減価償却費	144,138	144,138	0
会合費	568,819	6,658,202	△ 6,089,383
参加費	119,655	220,786	△ 101,131
消耗品費	1,182,365	694,294	488,071
パソコン管理費	1,424,794	667,665	757,129
印刷製本費	1,119,195	989,835	129,360
新聞図書費	71,630	0	71,630
賃借料	5,130,619	4,938,045	192,574
リース料	745,097	894,505	△ 149,408
保険料	41,591	0	41,591
委託費	4,043,116	4,156,570	△ 113,454
事務委託費	120,000	120,000	0
支払手数料	402,467	410,778	△ 8,311
支払謝金	1,142,500	2,707,214	△ 1,564,714
租税公課	0	2,000	△ 2,000
支払負担金	1,034,085	969,540	64,545
雑費	84,850	73,150	11,700
管理費	9,939,917	10,159,303	△ 219,386
役員報酬	774,000	774,000	0
給料手当	2,791,322	2,536,638	254,684
その他の労務費	256,828	561,020	△ 304,192
退職金		22,500	△ 22,500
役員退職金	24,750		24,750
退職給付費用	89,265	87,195	2,070
法定福利費	458,531	506,124	△ 47,593
福利厚生費	10,623	7,378	3,245
慶弔費	54,010	64,020	△ 10,010
旅費交通費	1,416,139	1,294,737	121,402
通信運搬費	396,285	968,639	△ 572,354
減価償却費	62,073	62,073	0
会合費	1,221,844	517,267	704,577
参加費	16,500	16,500	0
消耗品費	150,001	302,782	△ 152,781
パソコン管理費	552,798	429,809	122,989
印刷製本費	47,520	162,360	△ 114,840
新聞図書費	19,206	33,906	△ 14,700
賃借料	905,403	792,079	113,324
リース料	319,327	383,358	△ 64,031
保険料	7,339	0	7,339
委託費	0	82,500	△ 82,500
事務委託費	12,100	72,639	△ 60,539
支払手数料	269,049	302,354	△ 33,305
支払謝金	24,000	120,150	△ 96,150
租税公課	1,291	1,292	△ 1
雑費	59,713	57,983	1,730
経常費用計	62,701,430	73,390,467	△ 10,689,037
評価損益等調整前当期経常増減額	4,125,493	-4,488,015	8,613,508
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	4,125,493	-4,488,015	8,613,508
経常外増減の部			
経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	4,125,493	△ 4,488,015	8,613,508
一般正味財産期首残高	35,448,912	39,936,927	△ 4,488,015
一般正味財産期末残高	39,574,405	35,448,912	4,125,493
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
受取寄附金	3,300,000	0	3,300,000
受取寄附金	3,300,000	0	3,300,000
当期指定正味財産増減額	3,300,000	0	3,300,000
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	3,300,000	0	3,300,000
<b>III 正味財産期末残高</b>	42,874,405	35,448,912	7,425,493

正味財産増減計算書内訳表  
令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位: 円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
経常増減の部			
経常収益			
受取会費	43,785,000	13,585,000	57,370,000
個人会員受取会費	13,585,000	13,585,000	27,170,000
賛助会員受取会費	30,200,000	0	30,200,000
事業収益	0	0	0
業務受託収益	0	0	0
受取負担金	8,929,000	0	8,929,000
受取負担金	8,929,000	0	8,929,000
受取寄付金	500,000	0	500,000
受取寄付金	500,000	0	500,000
雑収益	27,923	0	27,923
受取利息	27,923	0	27,923
雑収益	0	0	0
経常収益計	53,241,923	13,585,000	66,826,923
経常費用			
事業費	52,761,513	0	52,761,513
役員報酬	4,386,000	0	4,386,000
給料手当	16,507,045	0	16,507,045
その他の労務費	1,455,364	0	1,455,364
役員退職金	140,250	0	140,250
退職給付費用	505,835	0	505,835
法定福利費	2,598,345	0	2,598,345
福利厚生費	60,203	0	60,203
慶弔費	0	0	0
旅費交通費	8,377,959	0	8,377,959
通信運搬費	1,355,591	0	1,355,591
減価償却費	144,138	0	144,138
会合費	568,819	0	568,819
参加費	119,655	0	119,655
消耗品費	1,182,365	0	1,182,365
パソコン管理費	1,424,794	0	1,424,794
印刷製本費	1,119,195	0	1,119,195
新聞図書費	71,630	0	71,630
賃借料	5,130,619	0	5,130,619
リース料	745,097	0	745,097
保険料	41,591	0	41,591
委託費	4,043,116	0	4,043,116
事務委託費	120,000	0	120,000
支払手数料	402,467	0	402,467
支払謝金	1,142,500	0	1,142,500
租税公課	0	0	0
支払負担金	1,034,085	0	1,034,085
雑費	84,850	0	84,850
管理費	0	9,939,917	9,939,917
役員報酬	0	774,000	774,000
給料手当	0	2,791,322	2,791,322
その他の労務費	0	256,828	256,828
役員退職金	0	24,750	24,750
退職給付費用	0	89,265	89,265
法定福利費	0	458,531	458,531
福利厚生費	0	10,623	10,623
慶弔費	0	54,010	54,010
旅費交通費	0	1,416,139	1,416,139
通信運搬費	0	396,285	396,285
減価償却費	0	62,073	62,073
会合費	0	1,221,844	1,221,844
参加費	0	16,500	16,500
消耗品費	0	150,001	150,001
パソコン管理費	0	552,798	552,798
印刷製本費	0	47,520	47,520
新聞図書費	0	19,206	19,206
賃借料	0	905,403	905,403
リース料	0	319,327	319,327
保険料	0	7,339	7,339
委託費	0	0	0
事務委託費	0	12,100	12,100
支払手数料	0	269,049	269,049
支払謝金	0	24,000	24,000
租税公課	0	1,291	1,291
雑費	0	59,713	59,713
経常費用計	52,761,513	9,939,917	62,701,430
評価損益等調整前当期経常増減額	480,410	3,645,083	4,125,493
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	480,410	3,645,083	4,125,493
経常外増減の部			
経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	480,410	3,645,083	4,125,493
一般正味財産期首残高			35,448,912
一般正味財産期末残高			39,574,405
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
受取寄附金	3,300,000		3,300,000
受取寄附金	3,300,000		3,300,000
当期指定正味財産増減額			3,300,000
指定正味財産期首残高			0
指定正味財産期末残高			3,300,000
<b>III 正味財産期末残高</b>			42,874,405

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 会計方針

「公益法人会計基準」(平成20年12月1日 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

建物附属設備、什器備品及びソフトウェア …………… 定額法によっている。

#### (3) 引当金の計上基準

##### 退職給付引当金

職員等の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づいて計上している。

#### (4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

### 2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
退職給付引当預金	1,828,700	760,100	-	2,588,800
CAETS開催準備資金	11,000,000	-	-	11,000,000
日豪若手研究者交流促進事業預金	-	3,866,204	3,477,029	389,175
日独先端工学シンポジウム預金	-	2,500,000	-	2,500,000
日米先端工学シンポジウム預金	-	800,000	-	800,000

### 3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
退職給付引当預金	2,588,800	-	-	2,588,800
CAETS開催準備資金	11,000,000	-	-	-
日豪若手研究者交流促進事業預金	389,175	-	-	-
日独先端工学シンポジウム預金	2,500,000	2,500,000	-	-
日米先端工学シンポジウム預金	800,000	800,000	-	-

### 4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	788,400	343,343	445,057
什器備品	1,612,022	876,206	735,816
ソフトウェア	1,998,000	1,998,000	-
合計	4,398,422	3,217,549	1,180,873

### 5. 引当金の増減額及びその残高

引当金の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	1,828,700	760,100	495,000	-	2,093,800

**財 産 目 録**  
(令和 7年 3月 31日現在)

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金	額
<b>I. 資 産 の 部</b>				
<b>1. 流 動 資 産</b>				
現金手元有高		運転資金等	118,045	
みずほ銀行芝支店		運転資金等	22,409,494	
三菱UFJ銀行田町支店		運転資金等	3,225,191	
郵便振替貯金		運転資金等	3,389,607	
未 収 金		会費等に係る未収金	410,000	
		渡辺記念会（5G/6G時代のAI利活用戦略）に係る未収金	529,000	
		(小計)	939,000	
前 払 金		渡辺記念会（来るべき未来の工学倫理と工学教育）に係る前払経費	1,860,328	
立 替 金		たよれーるひかり2月キャンセル分	3,300	
流 動 資 産 合 計				31,944,965
<b>2. 固 定 資 産</b>				
<b>(1) 特 定 資 産</b>				
退職給付引当預金	みずほ銀行芝支店	職員等の退職に備えるための預金	2,588,800	
CAETS開催準備資金	みずほ銀行芝支店	CAETS開催に備えるための預金	11,000,000	
日豪若手研究者交流促進事業預金	みずほ銀行芝支店	日豪若手研究者交流促進事業のための預金	389,175	
日独先端工学シンポジウム預金	みずほ銀行芝支店	日独先端工学シンポジウムのための預金	2,500,000	
日米先端工学シンポジウム預金	みずほ銀行芝支店	日米先端工学シンポジウムのための預金	800,000	
<b>(2) その他固定資産</b>				
建物附属設備	パーティション	公益・法人会計保有財産	445,057	
什器備品	プロジェクター・金庫	公益・法人会計保有財産	735,816	
ソフトウェア	会員管理システム	公益会計保有財産	0	
電話加入権		公益・法人会計保有財産	74,984	
敷 金	事務所賃貸敷金	公益・法人会計保有財産	2,376,000	
固 定 資 産 合 計				20,909,832
資 産 合 計				52,854,797
<b>II. 負 債 の 部</b>				
<b>1. 流 動 負 債</b>				
未 払 金		役員退職金、NTTPCへの未払経費	514,580	
前 受 金		会費等に係る前受金	4,993,500	
		渡辺記念会助成金収入の前受金	2,000,000	
		(小計)	6,993,500	
預 り 金		社会保険料・源泉所得税等の預り金	378,512	
流 動 負 債 合 計				7,886,592
<b>2. 固 定 負 債</b>				
退職給付引当金		職員等の退職に備えるための引当金	2,093,800	
固 定 負 債 合 計				2,093,800
負 債 合 計				9,980,392
正 味 財 産 合 計				42,874,405

# 2025年度 事業計画

## 1. 2025年度の展望

2019年末に始まった新型コロナウイルス感染症によるパンデミックについては、メッセンジャーRNA (mRNA) 技術に基づく新型コロナワクチンの実用化等により一定の収束がはかられたといえるが、国際情勢の激変、自然災害の拡大、国内では少子化と過疎化、労働生産性の停滞と1人あたりGDPランキングの急降下、そして防衛・安全保障の課題など、我が国、人類の安寧とより良き生存、世界の平和と安全、持続的な発展を脅かす事態は多発している。人類、地球は、その存続にとって、多岐にわたり複雑な問題に引き続き直面しており、これらのグローバルアジェンダの解決に向け、これまでの長年にわたる積み重ねにより飛躍的な進歩を遂げてきた科学や工学への期待はますます高まっている。

一方、生成AIが急速に進化・普及し、AIの応用領域や社会的な影響度、人間の必要スキルが大きく変貌しつつある。20世紀末以来のデジタル革命は、蒸気機関に代表される18～19世紀の産業革命に匹敵する、社会と人心を変える原動力になっており、AIなど最先端のデジタル技術の進歩がもたらす転換期の只中にあるといえる。EAJではこれまで、社会の在るべき将来ビジョンを洞察し、その方向性に沿って、フォーラム、シンポジウム、プロジェクトなどを実施するとともに、それらの結果に基づく多様な政策提言や共創の場の構築など、実績を積み上げてきた。EAJは2021年5月に「緊急提言－博士後期課程大学院生に対する支援の強化にあたって－」を取りまとめて政府に要望したところであるが、我が国の博士後期課程学生数は2023年、2024年と2年連続で過去最高を更新するなど、我が国の研究力強化への反転の兆しも見られつつある。このような兆しも踏まえつつ、全人類の膨大な知的資産であるウェブ情報の活用を可能にしたともいえる生成AIがさらに普及しつつある2025年度は、2027年のEAJ40周年

に向けてEAJの更なる飛躍をめざす新たな一歩を踏み出すため、これまで細分化した情報を「総合知」(Collective Intelligence)で紡ぎなおし、常識を見直し、根源的な問題点の整理・対策を見据えて、定款第4条に定める下記5事業を推進し、混沌とした時代を乗り越える工学と科学の新たな在り方を求め、「人類の安寧とより良き生存のために未来社会を工学する」というEAJの基本理念実現に一層尽力したい。

- (1) 創造的革新技術の萌芽の模索、評価等による、先見性・創造性のある基礎研究の推進のための調査研究、提言等に関する事業
- (2) 社会、産業界、学界が工学及び科学技術に関する分野で直面している具体的問題の把握とその解決に関する事業
- (3) 工学及び科学技術に関連する問題についての普及啓発活動に関する事業
- (4) 工学及び科学技術の分野における国際交流の推進に関する事業
- (5) その他本法人の目的を達成するために必要な事業

これらを担当する委員会、支部、プロジェクトでは、「年間活動計画」を作成し、以下の点に留意して計画的に活動を推進する。

- ①EAJの基本理念実現に向け、社会・環境エネルギー・経済課題のバランスの良い解決と価値創造、その早期社会実装をめざし、政策提言・共創活動、人材育成活動、支部活動、国際活動、会員参加型広報活動の一層の拡充、工学・EAJの認知度の更なる向上を図る。
- ②新支部設立に向けた活動なども通じて、人文社会科学分野なども含めた幅広い学問分野、学際分野の専門家や、若手会員、女性会員、賛助会員、私立大学・公立大学所属会員、支部会員など、これまで以上に多様な会員・賛助会員などをバランス良く拡充して一層の多様化を促進し、価値創生基盤の一層の強化を図る。

- ③外部機関との連携を一層密に、財務基盤の一層の強化を図り、公益事業の拡充に努める。

## 2. 法人運営に係わる活動

定款第4条に定める5事業を円滑かつ効果的に推進するため、下記の通り、正会員・客員会員・賛助会員のバランス良い拡充、多様化を図り、EAJの持続的な価値創生基盤の一層の強化、工学・EAJの認知度の更なる向上を図るべく、法人運営に関わる企画推進、組織基盤増強、事務局活動を推進する。

### 2-1 企画推進活動

#### 1) 社員総会

社員総会は、EAJの最高議決機関である。定時社員総会を、2025年6月に開催し、理事及び監事の選任、事業計画・予算、事業報告・決算などを決議する。

#### 2) 理事会

2025年度に5回（5月、定時社員総会直後、8月、11月、2月）開催し、「人類の安寧とより良き生存のために未来社会を工学する」というEAJの基本理念実現に向けて更なる飛躍をめざすべく、将来構想の早期実現を可能とする、正会員、客員会員、賛助会員の入会可否の決定、役員候補者の選任、諸規則の制定・改定・廃止、重要行事等の開催計画などの審議、決議を行う。なお、5月理事会にて、2024年度事業報告、収支決算、2025年度展望・事業計画と収支予算案など、定時社員総会に提議する全ての議案を決議し、2月理事会にて、2026年度事業計画および収支予算を決議する。

#### 3) 企画運営会議

2025年度に8回（4月、6月、8月、9月、10月、12月、2月、3月）開催し、2027年のEAJ40周年への更なる飛躍に向けて、定款第4条に規定される5事業の活性化、円滑な推進に関する重要事項などについて、企画・調査・検討し、理事会に提議する。また、会長、理事会からの諮問に応じて調査・検討し答申する。

#### 3-1) 企画推進グループ

2027年のEAJ設立40周年に向けたEAJ事業の

更なる活性化に向け、以下の活動を企画推進する。法人運営活動では、財務・事務機能強化委員会などと連携し、活性化に関わる事業活動基盤の強化を図る。公益目的事業活動では、支部、委員会、プロジェクトなどと連携し、会員向けコンテンツの充実、新入会員ガイダンス、談話サロン、EAJフォーラムの企画推進などを行い、EAJ内の会員間、事業間、更には内外産学官民間の共創を支援し、EAJならではの価値創出を促進する。

#### 3-2) 賛助会員企業ラウンドテーブル実行委員会

定款の使命に鑑み、賛助会員と、我が国ひいては世界の持続的発展に向けた取組などの共通課題について意見交換し、その成果をEAJ事業の参考にすると共に、産業界のEAJ活動への積極的な参加を呼びかけることなどを目的として、賛助会員企業ラウンドテーブル、および、賛助会員などとのネットワーキング構築に関わる、企画・調整・運営を行う。

#### 3-3) 若手リーダー塾実行委員会

2025年4月に、人材育成委員会、若手委員会と連携して、第2回若手リーダー塾として、フューチャー・リーダーズ・フォーラムを開催する。

#### 3-4) EAJフォーラム実行委員会

多数の会員が会する定時社員総会の機会を利用し、多様な分野の有識者が、「人類の安寧とより良き生存のために未来社会を工学する」というEAJの基本理念実現に向け、科学技術・イノベーションと環境、社会、経済との関係を議論する場としてのEAJフォーラムの企画推進を行う。

#### 3-5) 内規アップデート等検討ワーキンググループ

定款に定める事業の実施に必要な内規等の整合性が確保されるよう、既定の内規等の整合性等の検討や定款の事業の実施をより効果的・効率的に可能にするための既定の内規等の見直し等の検討を進める。

### 2-2 組織基盤増強活動

#### 1) 会員選考委員会

公正な会員選考を行うことを基本方針とす

る。会員の多様化を図る観点から、選考に際しては、若手、女性、賛助会員企業所属、私立・公立大学所属、さらに新しい工学技術分野や人文社会科学分野の候補者の業績内容を尊重する。また、会員強化委員会と協働して正会員の候補者推薦の多様化と増加を働きかけるとともに、他の委員会等の活動と連携して、EAJへの新入会員のポテンシャルの活性支援等にも取り組む。なお、会員選考委員会の委員在任期間については、選考委員会規程に則ることに努め、選考委員会委員構成が固定しないように取り組む。

2025年度は、会員強化委員会と連携して、多様な分野からの正会員・客員会員候補者の推薦を促すことに努める。また、客員会員の選考については、2023年度からスタートした新しい選考プロセスに基づき、客員会員候補者選定ワーキンググループの支援も得て実施するとともに、その適切性等について検証を行う。

## 2) 会員強化委員会

EAJの正会員・客員会員・賛助会員の多様性の拡充により価値創成基盤強化に貢献するとともに、会員数の維持・増強によりEAJ財務基盤の安定化に資することを目標に会員強化委員会活動を推進する。

- ①個人会員については、EAJの正会員、客員会員に相応しい候補者の積極的な推薦を会員に働きかけていく。
- ②特に、若手会員、女性会員、私立・公立大学所属会員、企業所属会員、支部会員、新興分野や人文社会科学分野などの会員の拡充による会員の多様化を進める。
- ③合わせて、委員会活動を通じて広くEAJの活動状況の把握を進めるとともに、EAJの各委員会、プロジェクト、支部と連携して会員のEAJ活動への参加を促進する。
- ④賛助会員については、幅広く多様な業種への拡大を図るとともに、特色ある小さな巨人の獲得を含む新規賛助会員の発掘を進める。
- ⑤賛助会員企業ラウンドテーブルについては、情報共有と意見交換を通じて賛助会員企業とのコミュニケーションを深め、賛助会員企業のEAJの活動への積極的な参加を

促進する。

## 3) 財務・事務機能強化委員会

2025年度の展望を踏まえて、事業活動全体が円滑に推進されるよう、支援を行う。財務事情の理解浸透に努め、限られた原資が最適かつ有効に活用されるよう留意する。また、将来に向けての持続性も考慮し、中期的な観点からも、一定レベルの期末正味財産残高を実現することを目標とする。①財務諸表（収支・正味財産計算書、貸借対照表等）の月次精査を通して予実管理を徹底すると共に執行成り行きを見極め、年度財務目標の達成に向けた実務的提言を行う。②限られたリソースを前提に、事務局内外の業務上のプロセス及び接点の妥当性を適宜見直すことにより、確実性と効率性を両立させ、サービスの向上につなげる。③組織規模に見合ったガバナンスの重要性を認識する。

## 4) 会長候補者推薦委員会

会長候補者推薦委員会設置要綱に基づき設置されている会長候補者推薦委員会に関しては、必要に応じて、会長候補に相応しい正会員を組織的に検討、推薦する。

## 5) 選挙管理委員会

理事及び監事候補者投票内規に則り、社員総会開催の3か月以上前の理事会にて選挙管理委員会を設置し、定款第21条第1項「理事及び監事は、社員総会の決議により選任する」に基づき、理事会が社員総会に提案する「理事及び監事候補者」に関する正会員の意向を把握するために行う投票（予備投票）に関する手続きを進める。

## 2-3 事務局

共創基盤の更なる高度化を図ると共に、それらを活用した事務局業務の円滑、効率的、効果的な推進に努め、法人運営に係る活動、および公益目的事業に係る活動を支援し、事業運営の活性化に貢献する。

## 3. 公益目的事業に係わる活動

定款第4条に定める5事業を円滑かつ効果的に推進するため、下記の通り、これまで拡充を進めてきた共創基盤を活用し、工学による社会・

環境・経済課題のバランスの良い解決と価値創造、その早期社会実装をめざし、政策提言活動、人材育成活動、支部活動、国際活動、広報活動などの一層の強化を図るべく、文理を超えたEAJの「総合知」を活かした、実践的な委員会、支部の協働活動を推進する。

### 3-1 委員会活動

#### 1) 政策提言委員会

- 我が国の工学及び科学技術全般の発展に寄与するため、創造的革新技術の萌芽の模索、評価を行うと共に、社会、産業界、学界が直面している具体的問題の把握とその解決を目指し、実装へのアクションプラン策定も意識し、強い熱意のあるプロジェクトリーダーと深く考えているメンバーにより、社会が目指すべき方向性について先見的、創造的な提言を発信する。
- 政策提言の幅広いテーマをカバーし、会員の参加意識を高めることを目的として、テーマに応じてトップダウン・ボトムアップ両面からの意見交換を行う検討会などを通じ、多様な会員の参加の拡充を図る。
- 賛助会員、新入会員アンケート結果なども踏まえ、科学技術、産業競争力の基盤の強化なども含めた新規テーマの拡充を図る。
- 広報委員会、政策共創推進委員会、研究力強化委員会、科学技術・イノベーション2050委員会、支部などとの連携を強化し、外部向け発表の場を拡充し、緊急提言も含めてそのアウトカムを最大限に活かす。
- 外部資金獲得の提案を積極的に支援する。その際、多彩な分野の会員主体の推進体制も検討する。
- 報告書要旨、図面の英文併用などを通じて一層のグローバル化を支援する。

#### 2) 政策共創推進委員会

我が国におけるミッシングリンクである立法府とアカデミアの間の科学技術情報共有をアカデミア側からのアプローチによって少しでも現実化することにより、日本の政策立案が、ますます複雑化しつつある社会の問題により適切に対処でき、国民からも信頼されるものとなることに寄与する。

そのため、2025年度は、2023年度に実施した「3年間自己評価」を踏まえ、引き続き、理事会で承認された方針に基づき、①国会議員との意見交換、「対話の会」の開催、②参議院調査部門とのワークショップの共催、③国立国会図書館との調査・提言テーマに関する情報交換、④若手研究者（博士課程の研究者を含む）による議員インタビュー、⑤政策共創プラットフォームの開催についてそれぞれの継続性を重視し、適宜実施する。

#### 3) 研究力強化委員会

我が国の研究開発システムの在り方を俯瞰的に考察し、その再設計と研究力の強化に関して、双方向交流の場を設け、多様な分野の第一線で活躍する若手研究者、女性研究者、企業研究者など有識者の声を集め、現場視点で有効な方策を議論するとともに、会員、マスコミ、国会議員など含めた関連ステークホルダーとの意見交換を行い、政府、立法府、学界、産業界への具体的な提言を行う。

#### 4) 科学技術・イノベーション2050委員会

本委員会の2025年度の活動基本方針は、2050年の持続可能な社会の維持・構築に必要な技術の開発・実装を目指し、そのために現在我々エンジニアが取り組むべき課題について議論することである。2050年に向けた「科学技術・イノベーション」ロードマップの策定を目指し、EAJ内で活発な議論を喚起できる新たな視点や論点を提供することを目的とする。

具体的な活動としては、約2か月に1回の頻度で全体委員会（基本的に対面＋オンラインのハイブリッド形式）を開催し、委員相互で議論を深めるとともに、EAJ内外の多様な学術分野の専門家を講師として招き、広い視点での議論を促進する。また、2025年度中に「生産性と持続可能性（仮）」を主題としたワークショップやシンポジウムを開催し、本委員会の活動を広く発信するとともに、「デジタルツイン」や「気候変動」などをキーワードとし特にエンジニアリング以外の学術分野の専門家とも意見交換を行う機会を設ける。

長期的には、グローバルサウスを含む国際的な連携を推進し、少子化・人口減少・経済規模縮小社会においても、安全で健康かつ文化的で

心豊かな生活を維持するために必須となる生産性向上や、リーダーとして活躍できる人材の育成を目指す。これにより、日本の科学技術を取り巻く長期的課題の展望を明らかにすることを目標とする。

#### 5) 国際委員会

各国の工学アカデミーとの組織的連携、積極的な若手人材の関連イベントへの派遣、国際事業の国内他機関との共催の拡大を軸に、日本における国際連携ネットワークを強化する。

国際アカデミー間連携では①国際工学アカデミー連合 (CAETS) (ブリスベン開催)、②東アジア工学アカデミー円卓会議 (EA-RTM) (日本開催オンライン) ③工学アカデミー会長会議 (AEPM) の事業を継続する。国際人材育成では①日米先端工学シンポジウム (JAFOE) の米国開催、②日豪若手研究者交流促進事業 (ERLEP) の2026年度開催準備、③日独先端工学プログラム (JAGFOE) の日本開催を行う。

#### 6) 人材育成委員会

EAJの目的を達成するために、各委員会ならびに支部と連携し、総合的な視野と中長期的な視点をもって戦略的に人材育成活動を進め、社会及び世界に貢献するべく、2025年度は下記の活動に注力する。

- ①若手リーダー塾実行委員会、若手委員会と連携し、第2回若手リーダー塾を開催する。
- ②EAJ報告書\_2020-04 “未来社会を見据えた科学技術イノベーションと高度工学系人材の育成”などを参考に、他委員会・支部との連携を深めつつ、工学における人材育成に関する活動を推進する。

#### 7) 若手委員会

2025年度の日本工学アカデミー若手委員会は、「国際人材の育成」を中心に据え、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型活動を展開する。国内外で活躍する研究者や技術者を招いたキャリアパス意見交換会や公開シンポジウムを対面形式で実施し、深い議論と直接的な交流を促進するとともに、オンライン配信を活用し、遠方の参加者にも知識共有を広げる。この形式を通じ、対面での密な交流の良さを生かしながら、社会全体に活動成果を発信する。

また、多国籍な若手研究者との連携を深め、

国際的な視点を取り入れる意見交換会を継続的に開催する。10代・20代のさらに若い世代を対象とした国際キャリア育成プログラムを強化し、ワークショップや講演を通じて次世代のリーダー育成を目指す。これらの活動は、国際的な場で必要なリーダーシップスキルや視点を養う実践的な学びの場を提供する。

加えて、日本の先進技術や文化を国内外に発信する展示やオンラインプロジェクトを推進し、国内の工学的成果を広く発信するだけでなく、グローバルなネットワークを構築する。これらの取り組みにより、国際的視点を持つリーダーの育成と、日本工学の国際的な認知度向上を同時に目指す。

#### 8) ジェンダー委員会

社会が直面している課題や未来社会の課題の把握および解決のためには、DE&I (Diversity, Equity, and Inclusion) の視点が必須である。本委員会では、他機関、EAJの他委員会、支部などとの連携を一層強化し、DE&Iに関わる活動を強化する。以下に2025年度のアクションプランを記す。

- ①更なるEAJ多様化策の検討および実施：他機関、EAJ他委員会・支部と連携しDE&I増強策を検討・強化・実施する。例えば、適切な女性委員を推薦する仕組みなどを策定し、実施する。
- ②EAJ支部との連携強化：EAJの更なる活性化に向け、共同シンポジウム実施などで協業する。テーマについては、定期的な意見交換を行い、会員、委員会と支部などとの課題感をすり合わせる。
- ③「ダイバーシティに関するGood Practice」記事の更なる活用：個人・組織のDE&I視点での好事例の情報発信を内外に向かって行う。それぞれのネットワークの活用を通して効果の最大化を図る。
- ④ジェンダー委員会内での知識共有の機会強化：ジェンダー委員会の定例会に有識者を招き、知見を共有いただき、委員の啓発ならびに視野を広げ、多様性のある活動推進を行う。
- ⑤海外の活動との連携：CAETS Diversity and Inclusion Working Groupなどとの連

携を強化し、情報共有・意見交換を行い、当委員会の取り組みを推進する。

## 9) 広報委員会

広報委員会においては、これまで、広報誌EAJ NEWSの企画・編集、会員各位へのEAJ ニュースレターによる広報、HP作成による外部への情報発信、活動報告書の編集・発行等を定常的に行ってきたところである。2023年及び2024年には、30年以上ぶりとなる一般向けのパンフレットも作成し、会員による新規会員勧誘等に活用されているところである。

2025年度も、これまでの活動を継続し、広報活動に注力することとするが、例えばEAJ全体が課題としている、よりバランスのとれた会員構成（所属、分野、年齢層、ジェンダー等）を実現できるよう適切な広報活動の在り方を追求・実践する。また、EAJへのエンゲージメント向上のため、EAJニュースレターに、新たに「会員の声(新入会員の近況)」欄を設け、正会員・客員会員双方に寄稿を依頼する。

さらに、2023年度に検討を開始した会員のEAJ出版物にかかる著作権の扱いについても、ガイドライン策定に向けて検討を継続していく。

## 3-2 支部活動

地域の特徴ある活動を中心に、支部間、支部・委員会の連携強化に努め、支部・地域発の提言・提案プロジェクトの掘り起こしも含め、広く事業展開を行う。また、「人類の安寧とより良き生存のために未来社会を工学する」事業活動を包摂的に推進するべく全ての地域での支部結成をめざし、中国・四国支部の設立に向けた活動を加速する。

### 1) 北海道支部

現在北海道では再生可能エネルギーや次世代半導体、宇宙開発、GXやDXに係る新たな産業創出への取り組みが進められている。道内の工学分野が変革期にある情勢において、北海道支部は工学人材の育成、及び研究者間のネットワーク形成、社会への啓発活動などを通じてより一層活性化を目指す。従前どおり、東北支部とは共催・協賛事業などにより連携し、相互の発展に資する。

支部発足5周年を迎えるにあたり、他支部の会員にも参加していただける交流会を企画し、支部間の連携を強化する契機としたい。

### 2) 東北支部

持続可能な社会の実現を目指し、東北地区の知的資産を活かした地域発の社会革新を進めるための活動を推進する。支部会員の多様化、活動のデジタル化を引き続き推進するとともに、下記の活動を実施する：

- ・講演会等による支部会員への情報提供と社会への発信：北海道支部、委員会、大学、学会等と積極的に連携する。
- ・支部として今後重点的に取り組むべき課題を検討する。

### 3) 中部支部

- ①EAJ中部レクチャーに中部独特のテーマを投入していく。
- ②スタートアップに関連して、スマートシティ、国際空港と基幹交通インフラなどが一体となって連携した地域開発と国際展開のテーマを検討していく。
- ③運営委員会にスマートシティ関連の人材を招く。
- ④他の国内外組織と工学を超えた横断的連携を進め、工学の常識を転換する。
- ⑤支部活動の世代交代を検討する。

### 4) 関西支部

EAJの設立主旨である日本の工学・科学技術全般の発展に寄与するとともに、科学技術に関わる産学官の指導的立場にある者の団体であることを基盤として、本支部会員への情報や交流の場の提供ならびに地域社会との共創活動に寄与し、併せて本支部会員相互の協調と親睦を図ることを目的とする。

特に、工学と他の分野との連携をテーマとして講演会等の開催を進める。可能であれば、現地見学会などを併用し、対面での会員等間の直接連携の場を構築し、支部活動の強化に努めたい。企画運用対応の大学数を増やし、会員活動の場や分野の範囲を広げる活動も試みる。事務局運営の安定化ならびに円滑化をより強化する試みを行う（そのための経費も予算化する）。

- ①運営委員会開催（3回程度開催予定）
- ②2025年度上半期 第14回講演会開催予定

(京都地区)

③2025年度下半期 第15回講演会開催予定

(神戸地区)

(見学会などの開催を種々企画するために、R7年度は予算を増額している。)

#### 5) 九州支部

本支部は、日本工学アカデミーの設立趣旨である日本の工学・科学技術全般の発展に寄与するとともに、科学技術に係る産学官の指導的立場にある者の団体であることを基盤として、本支部会員への情報や交流の場の提供ならびに地域社会に対する共創活動に寄与し、併せて本支部会員相互の協調と親睦を図ることを目的としている。

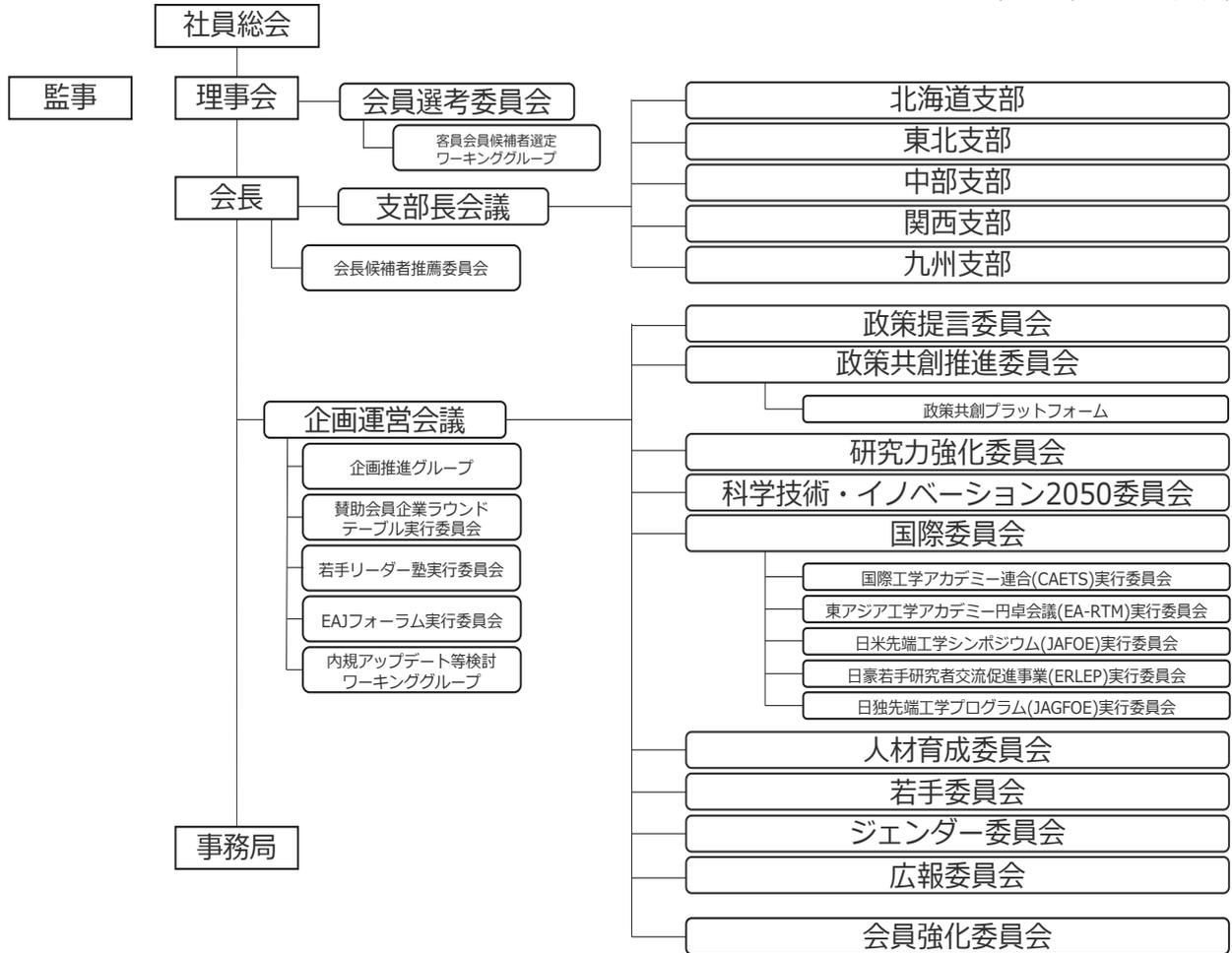
2025年度は、デジタル・オンライン技術を適宜活用した支部主催行事・交流等を企画・開催

する。また、運営委員会・会員拡大強化等の活動も引き続き行う。2025年度のアクションプランは次のとおりである。

- ①支部会員への情報提供や交流の場として、講演会、シンポジウム、懇親会などを開催する。
- ②次代を担う高校生や高専生に対する工学・科学技術の啓発活動として、出張講演会を開催する。
- ③支部運営体制の強化を図るとともに、会員拡充に向けた取り組み等を行う。
- ④九州地域の特性を反映した課題解決や地域の活性化に向けた活動を企画、実施する。
- ⑤上記実施にあたり、業務におけるデジタル・オンライン技術の活用を推進する。

# 2025年度 組織図

(2025年6月5日現在)



## 賛助会員

(入会順 2025年6月5日現在)

日本電気株式会社	株式会社日立ハイテク
住友電気工業株式会社	株式会社カネカ
トヨタ自動車株式会社	株式会社堀場製作所
大成建設株式会社	国立研究開発法人海洋研究開発機構
鹿島建設株式会社	富士フイルム株式会社
株式会社日立製作所	東京エレクトロン株式会社
三菱電機株式会社	三井化学株式会社
日本電信電話株式会社	横河電機株式会社
株式会社東芝	東海旅客鉄道株式会社
株式会社NTTデータグループ	武蔵エンジニアリング株式会社
株式会社NTTドコモ	東北電力株式会社
日産自動車株式会社	DMG森精機株式会社
一般財団法人新技術振興渡辺記念会	株式会社レゾナック・ホールディングス
東京電力ホールディングス株式会社	ダイキン工業株式会社
東レ株式会社	東海カーボン株式会社
国立研究開発法人科学技術振興機構	AGC株式会社
株式会社三菱総合研究所	株式会社大林組
株式会社 I H I	株式会社野村総合研究所
株式会社島津製作所	大日本印刷株式会社
株式会社建設技術研究所	株式会社安川電機
ファナック株式会社	花王株式会社
日本電子株式会社	国立研究開発法人
パナソニックホールディングス株式会社	新エネルギー・産業技術総合開発機構

# 2025年度 役員名簿

(2025年6月5日現在)

理事・会長	安西祐一郎	慶應義塾 学事顧問・名誉教授
理事・副会長(会長代理)	岸本喜久雄	東京工業大学 名誉教授
理事・副会長	五十嵐仁一	公益社団法人日本工学会 副会長
理事・副会長	大島 まり	東京大学生産技術研究所 教授
理事・副会長	川合 真紀	大学共同利用機関法人自然科学研究機構 機構長
専務理事	城石 芳博	公益社団法人日本工学アカデミー 専務理事
常務理事	坪井 裕	公益財団法人核物質管理センター 理事長
常務理事	林 秀樹	公益社団法人日本工学アカデミー 常務理事
理事	浅間 一	東京大学国際高等研究東京カレッジ 特任教授
理事	伊藤 みほ	株式会社デンソー 執行幹部 先端技術研究所長
理事	岩井 善郎	福井大学産学官連携本部 客員教授
理事	大村 直人	神戸大学大学院工学研究科 教授
理事	沖 大幹	東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授
理事	川合 知二	大阪大学産業科学研究所 招へい教授
理事	神崎 亮平	東京大学 名誉教授・先端科学技術研究センター シニアリサーチフェロー
理事	小林 信一	広島大学高等教育研究開発センター 特命教授
理事	塩満 典子	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学 学長補佐・特任教授
理事	関谷 毅	大阪大学産業科学研究所 荣誉教授
理事	瀬戸口 剛	北海道大学 理事・副学長
理事	田口 康	国立研究開発法人防災科学技術研究所 審議役・戦略的イノベーション推進室長
理事	立川 康人	京都大学工学研究科長・工学部長
理事	田中 真美	東北大学 副学長・大学院医工学研究科 教授
理事	谷 明人	JX金属株式会社 常務執行役員・技術本部審議役
理事	塚原 健一	九州大学大学院工学研究院 教授
理事	長坂 徹也	東北大学 未来科学技術共同研究センター 教授
理事	中山 智弘	国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター 戦略総括監
理事	行木 陽子	中央大学商学部 特任教授
理事	久枝 良雄	放送大学福岡学習センター 所長
理事	増田 隆夫	室蘭工業大学 理事・副学長
理事	道奥 康治	法政大学 名誉フェロー
理事	渡邊 政嘉	一般財団法人高度技術社会推進協会 常務理事
監事	亀井 信一	株式会社三菱総合研究所 顧問、山形大学 教授
監事	辻 篤子	科学ジャーナリスト

以上

# 2025年度 収支予算

## 【基本方針】

社会・経済情勢の激変、円安、物価高騰の進行、国際会議の対面開催の再開など、激動の時代となった。日本工学アカデミーが果たすべき役割はますます大きくなり、かつ臨機応変の対応も求められている。そこで2025年度の収支予算の基本方針として、質の高い活動を持続可能

な形で展開できるようにするべく、事業活動と当期正味財産を大きく損なうことのないよう各活動において両者のバランスをとって費用対効果の最大化に努めると共に、長期的な財務基盤の安定化に努める。

(単位：千円)

	2025年度予算(A)	2024年度決算額(B)	(A)-(B) 差額
事業活動収入	66,396	70,127	△ 3,731
事業活動支出	74,898	62,230	12,668
事業活動収支差額	△ 8,502	7,897	△16,399
投資活動収支差額	10,517	△ 4,449	14,966
予備費支出	0	0	0
当期収支差額	2,015	3,447	△1,432
次期繰越収支差額	26,073	24,058	2,015

## 【事業活動収入】

会費収入は現実的な水準（個人会費：27,000千円、賛助会員会費：23,400千円）を見込み、受取寄附金収入（7,500千円）と合わせて、66,396千円と見込んだ。

## 【事業活動支出】

各委員会、各支部の過去の支出実績を基準とした公益事業計画の実行性を担保しつつ、2024年度期末と同等の運転資金維持を目指した結果、74,898千円を見込んだ。

## 【当期収支差額】

これより事業活動収支差額は、8,502千円の赤字となる。一方、投資活動支出の部において、

収支差額は10,517千円の黒字（CAETS開催準備資金取崩収入：11,000千円、退職給付引当預金取得支出：483千円）で、当期収支差額は2,015千円の黒字となる。

## 【次期繰越収支差額】

以上より、2024年度の次期繰越収支差額が24,058千円に確定していることより、2025年度の次期繰越収支差額は、26,073千円を見込む。

## 【その他】

特定費用準備資金については、2025年2月13日理事会の議決に従い、CAETS2030開催準備資金11,000千円を取崩す。

## 2025年度収支予算

(千円)

科目	2025年度予算	2024年度予算	増減
<b>I 事業活動収支の部</b>			
<b>事業活動収入</b>			
1 会費収入			
個人会員会費収入	27,000	27,000	0
賛助会員会費収入	23,400	32,600	△ 9,200
2 事業収入			
業務受託収入			0
3 負担金収入			
負担金収入	8,496	8,929	△ 433
4 寄付金収入			
寄付金収入	7,500		7,500
5 雑収益			
受取利息収入			0
雑収入			0
<b>事業活動収入計</b>	<b>66,396</b>	<b>68,529</b>	<b>△ 2,133</b>
<b>事業活動支出</b>			
1. 公益目的事業活動支出			
企画運営会議費	75	150	△ 75
会員選考委員会費	113	75	38
会員強化委員会費	320	80	240
財務・事務機能強化委員会費	0	0	0
人材育成委員会費	720	1,000	△ 280
若手委員会費	1,600	700	900
ジェンダー委員会費	400	400	0
科学技術イノベーション2050委員会費	1,425	550	875
政策提言委員会費	3,880	9,926	△ 6,046
国際委員会費	16,919	3,850	13,069
国際会議	0	0	0
広報委員会費	3,746	4,205	△ 459
企画推進グループ(談話サロン等経費)	850	750	100
政策共創推進委員会費	1,125	1,200	△ 75
会長候補者推薦委員会費	0	25	△ 25
研究力強化委員会費	150	100	50
支部活動費	3,365	2,855	510
グローバル化・デジタル化対応	0	0	0
<b>公益事業費</b>	<b>34,688</b>	<b>25,866</b>	<b>8,822</b>
公益事務費	30,913	33,021	△ 2,108
<b>公益目的事業支出計</b>	<b>65,601</b>	<b>58,887</b>	<b>6,714</b>
2. 法人事業支出			
総会費	1,350	1,212	138
理事会費	300	400	△ 100
法人事務費	7,647	8,030	△ 383
<b>法人事業支出計</b>	<b>9,297</b>	<b>9,642</b>	<b>△ 345</b>
<b>事業活動支出計</b>	<b>74,898</b>	<b>68,529</b>	<b>6,369</b>
<b>事業活動収支差額</b>	<b>△ 8,502</b>	<b>0</b>	<b>△ 8,502</b>
<b>II 投資活動収支の部</b>			
1 投資活動収入			
退職給付引当預金取崩し収入	-	-	
敷金収入	-	-	
CAETS開催準備資金取崩し収入	11,000		
<b>投資活動収入計</b>	<b>11,000</b>	<b>0</b>	<b>11,000</b>
2 投資活動支出			
(1) 特定資産取得支出			
退職給付引当預金取得支出	483	460	23
CAETS開催準備資金取得支出	0	0	0
二国間連携準備資金取得支出	0	0	0
(2) 固定資産取得支出			
ソフトウェア取得支出		-	
(3) 敷金・保証金支出			
敷金支出		-	
<b>投資活動支出計</b>	<b>483</b>	<b>460</b>	<b>23</b>
<b>投資活動収支差額</b>	<b>10,517</b>	<b>△ 460</b>	<b>10,977</b>
<b>III 財務活動収支の部</b>			
財務活動収支差額	0	0	0
<b>IV 予備費支出</b>			
予備費支出	0	0	0
<b>当期収支差額</b>	<b>2,015</b>	<b>△ 460</b>	<b>2,475</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>3,034</b>	<b>9,741</b>	<b>△ 6,707</b>
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>5,049</b>	<b>9,281</b>	<b>△ 4,232</b>

			2025年度予算(単位: 千円)			2025年度予算コメント
			公益	法人	計	
(1)収益	会費収入	個人会費	13,500	13,500	27,000	個人会員対象680名前提。
		賛助会員会費	23,400		23,400	賛助会員45社前提。
	負担金収入		8,496		8,496	渡辺記念会受託3,000千円前提(女性エンジニアの現状とこれから)。JST JAFQE助成5,496千円前提(JAFQE総支出10,992の50%)。
	受取寄付金、その他		7,500		7,500	JAFQE 指定寄付金5社 3,500千円前提。JAFQE指定寄付金4,000千円前提(くら基金1,000を含む)。
	(収益計)		52,896	13,500	66,396	
(2)費用	公益支出	委員会・支部	34,688		34,688	渡辺記念会受託3,000千円。若手リーダー塾1,600千円織込み。国際総支出額 16,919千円: CAETS 1,422 EA-RTM 690 AEPM 315 ERLEP 0 JAFQE 10,992 JAFQE 3,500(内助成: JST 5,496 指定寄付金: JAFQE 4,000 JAFQE 3,500)
		グローバル化・デジタル化対応	0		0	
		公益事務費	30,913		30,913	人件費4,288千円削減織込み(公益3,430 法人 858)。従来同様公益:法人≒8:2。
		(公益支出計)	65,601	0	65,601	
	法人支出	総会費		1,350	1,350	賀詞交歓会500千円(対面)織込み。
		理事会費		300	300	6/5初回は対面実施。以降は基本オンライン開催。
		法人事務費		7,647	7,647	人件費削減。従来同様公益:法人≒8:2。
		(法人支出計)	0	9,297	9,297	
	(費用計)		65,601	9,297	74,898	
	(3)当期正味財産増減額 (1)-(2)			-12,705	4,203	-8,502

# 社団法人日本工学アカデミー設立趣意書

1997年4月23日

わが国の工学及び技術の基盤の確立と拡大強化を図り、先見性、創造性豊かな工学及び技術の創出を推進することは、わが国の発展の為ばかりでなく、世界人類の将来にとっても極めて重要である。従来わが国は応用技術、生産技術の面で革新的な展開を行うことにより、経済大国と呼ばれるまで成長したが、その後さらに創造性豊かな工学及び科学技術の推進や、これまで貢献の少なかった基礎研究の面における指導的役割も期待されるようになった。

1987年、大学・官公庁・民間において、工学の研究、技術開発、産業の振興等に顕著に貢献した優れた見識を持つ指導的立場の人々が上記の様な問題意識の下に、その学問分野や産業グループを越えて相集い、日本工学アカデミーを任意団体として設立した。その目的は必要に応じて独自の提言を行うことにより、わが国の科学技術全体の発展に寄与し、さらに諸外国のアカデミーとの交流を通して国際協力を推進することであった。

その後10年間にわたり、この日本工学アカデミーは委員会・専門部会等を編成して関連する問題について調査審議を行うと共に時宜に適った提言等を実施してきた。又、国際的に関心のある問題について、世界的権威者を招請して、国際シンポジウムを開催してきた。1990年には、海外各国の同種団体の連合体である国際工学アカデミー連合（International Council of Academies of Engineering and Technological Sciences—CAETS）へ加入を認められ、その活動に積極的に参加し国際交流を図ってきた。その結果、わが国の工学技術分野を代表する組織として、国際工学アカデミー連合加入の各国から高く評価されるようになってきている。

この時期に当たり、日本工学アカデミーを任意団体から改組し社団法人とすることにより、一層その活動を推進したいと考えるに至った。その理由は、1. 国際協力の活発化 2. 国内活動の強化 3. 普及啓発活動の推進 の三つである。

## 1. 国際協力の活発化

国際工学アカデミー連合（CAETS）のみならず、広く海外の各国、特にアジア各国でも、工学アカデミーの設立の気運があり、これらとの相互連携においても、日本工学アカデミーの立場が強化されることが望ましい。国際的にも日本工学アカデミーの活動が評価されるに伴い、これらの活動を円滑にする為、その活動の社会的な認知及び公共性を明確な立場として捉えることがより効率的と判断される様になって来ている。

## 2. 国内活動の強化

一昨年11月には、各省庁の枠を越えた議員立法によって科学技術基本法が成立し、内閣総理大臣の諮問を受けて、科学技術会議で策定された科学技術基本計画は昨年7月2日付で閣議決定された。政府は科学技術創造立国を基本政策とし、科学技術振興の為の種々の新施策も一部実行に移されつつあるが、科学技術基本法の基本的考え方は、日本工学アカデミーの設立の趣旨と全く合致する。日本工学アカデミーは、これら諸施策の最適な計画と実行を図る為、関係者の利害を超越して、国益のための積極的な提言活動等を強化する。

## 3. 普及啓発活動の推進

最近の社会状況として、青少年の理工学離れに警鐘が鳴らされており、青少年や一般国民に対して、科学技術とその経済社会への寄与について、その重要性を周知啓発する必要がある。この様な背景の下に日本工学アカデミーは、国内外で公式に認知された団体として所期の目的を更に拡大して、普及活動も含めた公益活動を効率よく、効果的に実行する。

以上の趣旨により、任意団体である日本工学アカデミーを発展的に改組し、社団法人日本工学アカデミーを設立しようとするものである。

以上

編集発行・2025年6月5日



〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町二丁目7番3号 HKパークビルⅢ 2F  
TEL:(03)6811-0586 FAX:(03)6811-0587

E-mail:desk@ej.or.jp

URL:<https://www.eaj.or.jp/>